

## 法政大學講義録

著者	松本 烝治, 泉二 新熊, 岩田 一郎
出版者	法政大學
巻	29
号	2学年の10
ページ	1-55
発行年	1908-07-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5839">http://hdl.handle.net/10114/5839</a>

明治四十一年七月二十日發行

。第貳學年ノ十

四十一年度

法政大學講義錄

號九十二第

法政大學發行



0217

四十一年度第二十九號目次

商 法 會 社 (自三〇五) (至三八〇) (完)

表紙及目次 一〇頁

法學士 松 本 丞 治

刑 法 各 論 (自七七) (至九二)

法學士 泉 二 新 熊

民事訴訟法第二編 (自九八) (至一〇八)

法學士 岩 田 一 郎

雜 報 ○第二十四回卒業證書授與式○大審院判例要旨

090  
1908  
2-1-10

總會ハ其招集ノ時期ニ依リテ之ヲ區別スレハ定時總會及臨時總會ト爲ル定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ之ヲ招集スルコトヲ要ス(一五七條)定時總會ニ於テハ主トシテ取締役力提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査シテ其承認ヲ爲シ又利益若クハ利息ノ配當ヲ決議ス(一五八條、一九〇條、一九二條)

臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役、監査役又ハ清算人カ之ヲ招集スルコトヲ得ルモノニシテ法定ノ場合ニ於テハ取締役又ハ監査役ハ之ヲ招集スルコトヲ要ス(一五九條、一八二條、二三四條、一四七條、一九八條、二一三條、二二六條、二二八條、二二九條、二三〇條)又資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得取締役カ其請求アリタル後二週間内ニ招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲スコトヲ得(一六〇條、二三四條)此招集其他ノ手續ニ關シテハ非訟事件手續法第一二六條第一項、第一三二條及ヒ第一三三條ヲ參照セラルヘシ

第三 招集

總會ハ一定ノ形式ヲ踐ミテ之ヲ招集スルコトヲ要ス其手續ハ第一五六條ノ規定セル所ノ如シ(二二六條ニ參照)同條第二項ノ所謂總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ノ決議ノ記載ハ之ヲ議事日程ト謂フ議事日程ハ總會ニ於テ決議スヘキ事項ノ何タルヤヲ知ルコトヲ得ルニ足

ルモノナラサルヘカヲサルハ勿論ナルモ總會ニ提出スヘキ書類ノ内容ヲ悉ク記載スルカ如キハ其必要ナカルヘシ有名ナル明治三十五年七月八日ノ大審院判決ハ損益計算書ノ如キモノモ之ヲ總會招集ノ通知書中ニ記載スヘキモノトセルモ此ノ如キハ到底不能ノ事ナルヘシ尙ホ總會開會ノ場所及ヒ日時ノ如キハ定款ニ其定ナキ以上ハ之ヲ通知書中ニ記載シ及ヒ公告スヘキコトハ法律ニハ規定ナキモ蓋シ當然ノ事ナリト信ス

#### 第四 議事

總會ニ於テ決議スルコトヲ得ヘキ事項ハ招集ノ通知又ハ公告中ニ包含セラレタル事項ニ限ラルルモノト解シテ可ナルヘシ民法ノ社團法人ニ於テハ定款ニ別段ノ定アルトキハ豫メ通知ヲ爲シタル以外ノ事項ヲモ決議スルコトヲ得ルコト爲レルモ商法上ニ於テハ此ノ如キモノハ許サレサルモノト解シテ可ナルヘシ(民六四條參照)

議事ノ方式ニ關シテハ法律ニ規定ナキヲ以テ定款ノ定ムル所ニ依ル若シ定款ニ規定ナキトキハ會議ノ議事ノ一般ノ通則ニ依ルノ外ナカルヘシ或學者例ヘハ「ベールント」スタウプノ如キハ定款ニ規定ナキトキハ悉ク之ニ議會ノ議事規則ヲ適用スヘキモノナリト曰ヘルモ此說ハ毫モ明文上ノ根據ナク獨斷ノ說ト謂ハサルヘカラス

總會ノ議事ハ決議録ヲ作り其進行ヲ記載シテ之ヲ本店及ヒ支店ノ所在地ニ備ヘ置キ株主及ヒ會社ノ債權者ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス(一七一條、二六一條九號)

#### 第五 議決權

各株主ハ一株ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有ス(一六二條)株主ノ議決權ハ奪フヘカヲサル權利ナルカ故ニ定款ノ規定ヲ以テ議決權ナキ株式ヲ認ムルコトヲ得ス然レトモ此原則ハ各國ノ商法カ必スシモ皆之ヲ探レル所ニ非スシテ明文ヲ以テ我商法ト同一ノ趣旨ヲ認ムル獨逸、瑞西、白耳義及ヒ瑞典法ニ止マル唯此原則ニ對シテハ例外アリテ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得(一六二條但書)又舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ此規定ニ反スル場合ニ於テモ仍ホ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得ヘシ但商法施行後ニ定款ノ規定ヲ變更スル場合ハ此原則ニ適合スヘク變更スルコトヲ要ス(商法六一條)

議決權ノ行使ニ關シテ原則トシテハ其制限ナク株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ但代理人ハ其代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出スコトヲ要ス(一六一條三項)獨逸學者中ニハ法定代理ノ外ハ定款ノ規定ヲ以テ代理人ニ依ル議決權ノ行使ヲ禁スルコトヲ得ト曰ヘル者アルモ我商法ノ解釋トシテハ此ノ如キコトヲ許ササルモノト謂ハサルヘカラス唯代理人ノ資格ニ制限ヲ定メ之ヲ株主タル者ニ限ルカ如キハ妨ナカルヘシ

議決權ノ行使ニ付キ法律ニ設クル制限ニ二アリ即チ一ハ無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルニ非サレハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス(一六一條二項)二ハ總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得サルコト是ナリ(一六



「一條四項」茲ニ所謂特別ノ利害關係ヲ有スル者トハ決議ニ因リテ特ニ權利ヲ得若クハ義務ヲ免ルヘキ者又ハ特ニ權利ヲ失ヒ若クハ義務ヲ負フヘキ者ヲ指ス故ニ取締役ハ會計計算ノ承認ノ決議ニ付テハ其議決權ヲ行使スルコトヲ得ス而シテ獨逸學者中ニハ總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ他人ノ代理人トシテモ議決權ヲ行フコトヲ得スト曰ヘル者アリ伊太利、和蘭法ノ如キハ取締役ハ常ニ他ノ株主ノ代理人タルコト能ハスト定ムルモ我商法ノ解釋トシテハ特別ノ利害關係ヲ有スル株主ハ單ニ自己ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得ナルノミニシテ他人ノ代理人トシテ他人ノ議決權ヲ行使スルコトハ妨ナカルヘシ

以上ニ述ヘタル法律ノ定ムル制限以內ニ於テモ定款ヲ以テ議決權行使ノ方法ニ制限ヲ加ヘテ特別ノ株主例ヘハ婦女子、未成年者ノ如キハ其代理人ヲ以テスルノ外ハ議決權ノ行使ヲ爲スコト能ハサルヘキ旨ヲ定ムルモ妨ナカルヘシ（同說「ベールンド」「スタウプ」「反對說」「リング」「ビンネル」「レーマン」）唯全然特定ノ株主ノ議決權ノ行使ヲ妨クルニ至ルヘキ制限ハ之ヲ加フルコトヲ得ス故ニ特定ノ期間株式ヲ所有セシ者ニ非サレハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ストノ定款ノ規定ノ如キハ無効ナルヘシ

#### 第六 決議

總會ノ決議方法ニ付テハ之ヲ通常決議ト特別決議トニ別ツコトヲ要ス法定ノ場合ニ於テハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス（二〇

九條一項）之ヲ特別決議ト稱ス特別決議ノ場合ニ付テハ尙ホ所謂假決議ノ方法ヲ定ム但會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ假決議ノ方法ニ依ルコトヲ得ス（二〇九條二項乃至四項）此假決議ノ方法ハ佛蘭西商法ニ倣ヒタル制度ニシテ獨逸法ニハ此ノ如キ制度ナシ

法律ノ規定ニ依リテ特別決議ノ方法ニ依ルコトヲ要スル事項以外ノ決議ニ付テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス之ヲ通常決議ト稱ス（一六一條一項）通常決議ニ付テハ定款ノ規定ヲ以テ定足數其他ノ方法ヲ定ムルコトヲ妨ケス若シ定足數ノ定ナキトキハ通常決議ノ場合ニ於テハ出席者一八ナルモ仍ホ總會ノ決議ヲ爲スコトヲ得ルモノナリト信ス（同說「レーマン」「ベールンド」等、反對說「ルノー」「ヘルゲンハーン」等）

#### 第七 決議事項

商法ノ規定ニ依リ必ズ總會ノ決議ニ因リテ定ムヘキモノトセル事項ハ之ヲ稱シテ總會ノ法律上ノ決議事項又ハ專屬事項ト謂フ法律上ノ決議事項ニハ更ニ二種アリテ一ハ特別決議ヲ要スヘキモノニシテ他ノ一ハ通常決議ニテ足ルモノナリ前者ヲ列舉スレハ次ノ如シ

- 一 定款ノ變更（二〇八條）
- 二 任意解散（二二條二號、二三條）
- 三 會社ノ合併（二三條、二三條）
- 四 社債ノ募集（一九九條）

通常決議ニテ可ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

- 一 利益ノ配當(一五八條)
- 二 利息ノ配當(一五八條)
- 三 取締役ノ選任及ヒ解任(一六四條、一六七條)
- 四 監査役ノ選任及ヒ解任(一八九條)
- 五 取締役ニ對スル競業禁止ノ解除及ヒ取締役ノ競業禁止ニ違反シタル場合ニ於ケル進入權ノ行使(一七五條一項、二項)
- 六 計算ノ承認(一九〇條、一九二條)
- 七 新株募集手續ノ調査(二二三條)
- 八 清算ノ承認(二三〇條)

以上ニ舉ケタル所ハ法律上ノ決議事項ニシテ即チ必ス總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムヘキ事項ナリ此以外ニ於テ定款ノ規定ヲ以テ總會ノ決議事項ヲ定ムルコトハ勿論妨ナキ所ナリ若シ定款ノ規定ヲ以テ總會ノ決議事項ヲ定ムルコトキハ其事項ニ付テハ取締役ノ專決ヲ許ササルコトト爲ルモノニシテ隨テ取締役ノ業務執行權ノ制限ト爲ルヘシ

# 第八 決議無効ノ訴

法定ノ場合ニ於テハ株主ハ總會ノ決議ノ無効ヲ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(一六三條一

項)學者ハ通常之ヲ稱シテ決議取消ノ訴ト謂フ此訴ヲ請求スル株主ノ權利ハ奪フヘカラサル權利ノ一ナルヲ以テ定款ノ規定ヲ以テ此訴ヲ起スコトヲ得サルコトト爲スコトヲ得ス決議無効ノ訴ノ條件ハ次ノ如シ

(一) 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ要ス、故ニ總會ノ決議自體カ法令中ノ公益規定又ハ定款ノ規定ニ違背シタル場合ニ於テハ其決議ハ法律上當然無効ニシテ隨テ決議無効ノ訴ヲ起スコトヲ要セスシテ其效力ナシ唯此場合ニ於テハ別ニ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ決議無効確認ノ訴ヲ起スコトヲ得ルハ勿論ナリ而シテ苟モ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反セルトキハ其訴ヲ起シタル株主ノ利益ヲ害シタルト否ト又ハ會社ノ利益ニ影響ヲ及ホシタルト否トヲ問ハス

(二) 決議ノ日ヨリ一箇月内ニ訴ヲ起スコトヲ要ス(一六三條二項)

(三) 訴ヲ起ス者ハ株主タルコトヲ要ス、我商法ノ解釋トシテハ縱令其決議ニ賛成シタル株主ニテモ亦此訴ヲ起スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス(獨商二七一條參照)又苟モ株主タルトキハ其取締役又ハ監査役タルト然ラサルト問ハス然レトモ取締役又ハ監査役ニ非サル株主カ訴ヲ起シタルトキハ其株券ヲ供託シ且會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(一六三條三項)

決議無効ノ訴ノ效果ハ次ノ如シ

(一) 訴ノ提起アルモ決議ノ無効ナルヤ否ヤハ宣告ヲ俟タサレハ之ヲ知ルコトヲ得ス故ニ取締役ハ此訴ニ拘束セラルルコトナク依然トシテ其決議ノ趣旨ニ從ヒテ業務ヲ執行スルコトヲ得唯決議ヲ執行スルニ因リテ他日其無効ナルコト確定スルニ至リ回復スヘカサル結果ヲ生スヘキトキハ一時之カ執行ヲ中止スルヲ可トシ又決議ノ無効ナルコト疑ヲ容レサルトキハ取締役ハ自己ノ責任ヲ以テ其執行ヲ中止スルコトヲ要ス

(二) 決議無効ノ宣告カ確定シタルトキハ其效力ハ絕對ニシテ決議ハ初ヨリ成立セサリシモノト爲ル(獨商二七三條參照)但取締役カ無効ト爲リタル決議ニ基キ會社ヲ代表シテ第三者ト爲シタル行爲ノ效力ハ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル結果トシテ決議無効ノ宣告ノ影響ヲ受ケサルコト多カルヘシ

(三) 決議カ無効ニ非ストノ宣告カ確定シタルトキハ決議ハ初ヨリ有效ト爲リ訴ヲ起シタル株主ハ損害賠償ノ責任セサルヘカラス

(四) 決議無効ノ訴カ法定ノ條件ヲ履ミテ提起セラレサルトキハ決議ハ手續ニ欠缺アリシニ拘ハラス初ヨリ有效ナリシモノト爲ル然レトモ法律上有效ナル決議ト謂フヘキモノナカリシトキ例ヘハ總會招集等ノ權限ナキ者カ總會ヲ招集シタルトキ又ハ全ク招集ヲ爲ササリシトキノ如キハ其決議ハ初ヨリ無効ニシテ取消ノ訴ノ有無又ハ之ニ對スル判決ノ如何ニ因リテ影響セララルコトナシ此場合ニ於テモ前ニ述ヘタル決議自體ノ違法ナリシ場合ト同シク民事訴訟法ノ規定ニ

從ヒテ決議無効確認ノ訴ヲ起スコトヲ得ルハ勿論ナリ

## 第二款 取締役

### 第一 意義及ヒ選任、終任

取締役トハ會社ヲ代表シ及ヒ其義務ヲ執行スル會社ノ通常ノ機關ヲ謂フ  
取締役ハ會社ヲ代表スル通常ノ機關ナリ會社ハ取締役カ之ヲ代表スルヲ常トスルモ特定ノ場合ニ於テ株主總會自身カ會社ヲ代表シテ會社ノ意思ヲ表示スルコトアリ又監査役カ會社ヲ代表シテ行爲ヲ爲スコトアルカ故ニ取締役ハ會社ノ唯一ノ代表機關ト謂フコトヲ得ス而シテ會社ノ代表機關トハ會社ナル團體ノ一部トシテ其團體ヲ代表シ外部ニ對シテ團體ノ意思ヲ表示スル機關ナリトノ意味ナルカ故ニ之ヲ以テ民法上ノ普通ノ代理關係ト視ルハ法理上誤ナリト謂ハサルヘカラス代理トハ他人ノ爲シタル行爲カ直接ニ本人ニ其效力ヲ及ボスヲ謂フ(民九九條)然ルニ會社ノ機關トシテノ取締役ハ獨立ノ人格者ニ非ス取締役ノ行爲ハ即チ會社ノ行爲自體ニ外ナラス獨逸民法ハ法人ノ理事ハ法定代理人ノ地位ニ立ツト云ヒ(獨民二六條)其純粹ナル意味ニ於ケル代理人ト異ナレルコトヲ示セリ我民法及ヒ商法カ右ニ述ヘタル獨逸民法ノ如キ規定ヲ有セスシテ唯代理權ナル語ヲ用フル最近ノ法理論ト相容レサルモノト謂ハサルヘカラス(一七〇條二項、六二條、民五四條)

取締役ハ會社ノ業務ヲ執行スル通常ノ機關ナリ然レトモ唯一ノ機關ニ非ス其執行スヘキ業務及ヒ執行ノ方法ハ後ニ之ヲ詳説スヘシ

取締役ハ會社ノ機關ナリ此意義ニ於テ外國ノ學者ハ取締役ト取締役員トヲ區別セリ即チ會社ノ機關トシテノ取締役ハ會社組織ノ一部分ナリ獨立ノ人格者ニ非ス之ニ反シテ取締役員ハ會社機關タル取締役ヲ組織スル人ナリ故ニ獨立ノ人格者ナリ例ヘハ取締役ハ猶ホ官廳ノ如ク取締役員ハ猶ホ官吏ノ如シ官廳ハ一人又ハ數人ノ官吏カ之ヲ組織スレトモ國家ノ機關ニシテ人格者ニ非ス之ニ反シテ官吏ハ即チ人格者ナリ然レトモ我商法ハ此ノ如キ語ノ區別ヲ爲サス隨テ其取締役ト云ヘルハ寧ロ正確ナル意味ニ於テハ取締役員ノ意味ニ用ヒラルコト多キカ如シ以下ノ説明ニ於テハ法典ノ用語ニ從ヒ取締役及ヒ取締役員ナル二ノ語ヲ區別シテ用ヒサルヘキモ其二ノ語ノ意義ニ於テ全ク異ナレルモノナルコトハ常ニ腦裡ニ存セラルヘシ

取締役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス(一六四條)英法、獨法等ニテハ取締役ヲ選任スヘキ機關ハ法律上之ヲ定メサルモ獨逸ニテハ通常監査役ニ於テ之ヲ選任ス之ニ反シテ佛蘭西法系ニテハ株主總會ニ於テ之ヲ選任スルモノトセリ我商法モ此點ニ於テハ佛蘭西法ニ倣ヒ株主總會ニ於テ之ヲ選任スルモノトセリ

取締役ハ株主中ヨリ之ヲ選任ス(一六四條)此主義モ亦佛蘭西法系ニ倣ヒタルモノニシテ佛蘭西ノ外ニハ瑞西、葡萄牙ノ外ハ此ノ如キ制限ヲ設ケス唯伊太利法、白耳義法ノ如キハ取締役ニ選任セ

ラレタル者ハ自己ノ株主タルト他人ノ株主タルトヲ問ハサルモ特定數ノ株式ヲ會社ニ供託スヘキコトトセリ我商法ハ此主義ヲモ併セ採リ取締役カ有スヘキ株式ノ數ハ之ヲ定メ(一六八條)ノトシ取締役ハ其株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要スト定メタリ(二〇條五號、一六八條)

取締役タルノ資格ハ株主タルコトヲ要ストノ外ハ法律上ノ制限ナキモ其法人タラサルコトヲ要スルコト及ヒ意思能力者タルコトヲ要スルコトハ自然ニ生スヘキ制限ニシテ尙ホ此以外ニ於テ定款ヲ以テ之ニ制限ヲ加フルコトヲ妨ケス何トナレハ株主ハ取締役ニ選任セラルル權利ヲ有スル者ニ非サルカ故ニ定款ヲ以テ此ノ如キ制限ヲ加フルハ決シテ株主權ヲ害スルモノニ非サレハナリ又我商法ハ取締役カ有スヘキ株式ノ數ハ定款ノ必要ノ記載事項トセルカ故ニ定款ニ依リ特定ノ數以上ノ株式ヲ有スル株主ニ非サレハ取締役タルコトヲ得サルコトヲ定ムルコト必要ナリ

取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス(一六五條)是レ白耳義法ニ倣ヒタルモノニシテ「セルビヤ」ノ商法亦之ニ倣ヘリ北米合衆國ノ或州ノ法律ニハ取締役ノ員數ニ付キ最大限及ヒ最小限ノ定ヲ爲セルモノ多ケレトモ其他ノ國ニハ此ノ如キ制限ノ例ナシ故ニ多數ノ外國法ノ解釋トシテハ取締役ハ一人ニテモ可ナルモノトセリ

取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス(一六六條)是レ葡萄牙法、亞爾然丁法、英國ノ模範定款ト同様ノ規定ニシテ其他ノ國ニハ六年、五年又ハ四年等ノ制限ヲ爲シタルモノアルモ獨逸法ニ



ハ此制限ナシ而シテ我商法ニハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス」ト定メアルカ故ニ定款ヲ以テ之ヲ縮少スルヲ妨ケス又我商法ニ於テハ任期満了後再選スルモ妨ナキモ葡萄牙法、亞爾然丁法等ハ此點ニ於テ我商法ト異ナリ再選ヲ許ササルモノトセリ

取締役ハ其選任ニ因リ會社ト如何ナル關係ニ立ツモノナリヤ予ハ從來委任、準委任ノ關係ナリト解セリ株主總會ニ於ケル選舉ハ即チ其被選舉者ニ對スル申込ニシテ被選舉者カ之ヲ承諾シタルトキハ會社ト取締役トノ間ニ委任契約成立ス我大審院ハ取締役ノ選任ハ單獨行為ニシテ被選舉人ノ承諾ヲ俟タスシテ其效力ヲ生ストスルモ此ノ如キ學說ハ外國ノ判例並ニ學說ニ於テハ一モ聞ク所ナシ（此點ニ關シ詳細ナル說明ハ法學協會雜誌第二一卷第一二號ニ掲ケタル予ノ論文ヲ參照セヨ）

取締役ハ會社ト委任關係ニ立ツカ故ニ何時ニテモ辭任スルコトヲ得（一條、民六五一條）又取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得（一六七條）民法第六五一條ノ規定ハ任意規定ニシテ隨テ定款ノ規定ニ依リ取締役ノ辭任ヲ禁止スルコトヲ得ルモ商法第一六七條ハ公益規定ナルカ故ニ會社ハ定款又ハ總會ノ決議ニ依リ辭任ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ス是レ商法第一六七條カ特ニ規定セラレタル一ノ理由ナリ

取締役ハ會社ト委任關係ニ立ツ故ニ其死亡破産及ヒ禁治産ニ因リ當然退任シ（一條、六五三條）其他定款ニ依リ退任ノ事由ヲモ定ムルコトヲ得

## 第二 職務

會社ノ業務執行ハ原則トシテハ取締役ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任ノ如キ即チ然リ（一六九條）

定款ニ別段ノ定ヲ爲ストキハ業務ヲ各取締役ニ分擔セシメテ執行スルコトヲ得ヘク又特定ノ取締役ノミヲシテ業務ヲ專決セシムルコトヲ得後ノ場合ハ通常其取締役ヲ稱シテ專務取締役ト謂フ

取締役カ會社ノ業務ヲ執行スルニハ法令及ヒ定款ノ規定ヲ遵奉スヘキハ勿論總會ノ決議アルトキハ之ニ從フコトヲ要ス但一言注意スヘキハ定款又ハ總會ノ決議ニ違反スル行為ヲ爲スモ會社代表ノ關係ニ於テ其行為ノ效力カ會社ニ及フヤ否ヤハ別問題ニシテ後日説明スヘシ而シテ取締役カ業務ヲ執行スルニハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テスルコトヲ要ス（一條、民六四四條）

取締役ノ執行スヘキ職務トシテ法律ノ特ニ掲ケタルモノ三アリ即チ次ノ如シ此以外ニ於テハ會社ノ會計ニ關シテ職務ヲ有スルモ此點ハ次節ノ説明ニ譲ルヘシ

一 取締役ハ法定ノ書類ヲ會社ノ營業所ニ備ヘ置キ株主及ヒ會社債權者ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス（一七一條乃至一七三條、二六〇條）

二 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シ之ヲ報告スルヲ要ス（一七四條一號、二六一條一〇號）

茲ニ所謂「資本ノ半額ヲ失ヒタルトキ」トアルハ貸借對照表ニ於テ貸方ノ總額カ借方ノ總額ニ達セサル差額所謂資本ノ缺損カ資本額ノ半ニ達シタルト云フノ意ナリ

三 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス(一七四條二項、二八二條六號)

取締役ハ會社ノ業務ヲ主宰スル者ナルカ故ニ法律ハ其會社トノ利害相衝突センコトヲ恐レ二箇ノ特別規定ヲ設ケタリ即チ次ノ如シ

(一) 取締役ハ競業禁止ニ服ス但定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ニ服スルヲ要セサルコト勿論ナルモ尙ホ法律ハ株主總會ノ認許アルトキハ之ニ服セサルコトヲ得ルモノトセリ(一七五條)取締役ニ對シ競業禁止ノ規定ヲ爲セルハ獨逸、奧太利、葡萄牙ノ二三國ニ止マレリ

(二) 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此規定ノ解釋ニ付テハ爭アルモノ予ノ解スル所ニ依レハ取締役ハ自己カ會社ヲ代表シテ取引ヲ爲ス場合ト否トヲ分タス監査役ノ承認ヲ得ルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得サルノ意ナリ故ニ民法第一〇八條ノ例外タルニ止マラサルナリ而シテ本條ハ公益規定ナルカ故ニ之ニ違反シタル行爲ハ當然無効ナリ大審院カ之ヲ以テ會社カ取消ヲ求メ得ルニ止マルト判決セルハ曲解ナリト謂ハサルヘカラス(明治三十六年九月四日大審院休暇部判決參照) 外國法ヲ見ルニ本條ニ該當セル制限ヲ爲セル例ハ佛蘭西法及ヒ伊太利法ニシテ葡萄牙

法、亞爾然丁法等ニテハ絶對的ニ取締役ト會社トノ取引ヲ禁止セルモ他ノ諸國法ニハ此ノ如キ制限ヲ設ケタル例ナシ

### 第三 責任

取締役ハ會社ニ對シテ契約上ノ責任及ヒ法律上ノ責任ヲ負ヒ又特定ノ場合ニ於テハ第三者ニ對シテモ法律上ノ責任ヲ負フコトアリ然レトモ各箇ノ株主ニ對シテハ別ニ其株主ニ對シテ不法行爲ヲ爲シタル場合ノ外責任ヲ負フコトナシ次ニ説明スル少數株主ノ取締役ニ對スル起訴ノ如キモ會社ノ訴ニシテ會社カ取締役ニ對スル訴ナリ英吉利法系及ヒ佛蘭西法、自耳義法、瑞西法等ノ如キハ特定ノ場合ニ於テ株主ト取締役ニ對スル訴ヲ認ムルモ我商法ハ獨逸法ニ倣ヒ此ノ如キコトヲ認メス

取締役カ會社ノ業務ヲ執行スルニ當リ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リ會社ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ會社ニ賠償スルコトヲ要ス然レトモ定時總會ニ於テ取締役カ提出シタル帳簿類ノ承認ヲ爲シタルトキハ取締役ハ責任ヲ解除セラルルモノトス但取締役ニ不正當ノ行爲アルトキハ此限ニ在ス(一九三條)

株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一箇月内ニ訴ヲ起スコトヲ要ス(一七八條一項)此場合ニ於テハ會社カ取締役ニ對シテ訴ヲ起スモノナリ



故ニ少數株主ノ請求ニ因リ訴ヲ起シ會社カ敗訴シタル場合ニハ其株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責任スルモノニシテ取締役ニ對シテハ責任ナシ(一七八條三項)尙ホ法律ハ少數株主權ノ濫用ヲ防ク爲メ特別ノ規定ヲ爲セリ(一七八條二項)此等ノ訴訟ニ於テハ監査役ハ會社ヲ代表ス但株主總會又ハ少數株主ハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得(一八五條)

取締役ノ第三者ニ對スル責任ニ付テハ特別ノ規定アリ即チ第一七七條ノ規定是ナリ同條ニ曰ク「取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス」前項ノ規定ハ其行爲ニ對シ株主總會ニ於テ異議ヲ述ヘ且監査役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ニハ之ヲ適用セス」ト外國法中葡萄牙法、亞爾然丁法ハ取締役ハ其職務ヲ怠リタル事ニ付キ絶對的ニ第三者ニ對シ責任ヲ負フヘキコトセリ之ニ反シテ獨逸及ヒ瑞西ニテハ原則トシテ取締役ハ直接ニ第三者ニ對シテ責任ヲ負フヘキモノトセリ我商法ノ如ク法令又ハ定款ニ反スル行爲ノミニ付テ責任アリトスルハ英米法及ヒ佛蘭西法系ノ主義ニ從ヘルモノナリ

取締役ハ以上ニ述ヘタル責任ノ外其職務ヲ怠リタル場合ニ過料ノ制裁ヲ受クルコトアリ(二六一條、二六二條)

#### 第四 權限

取締役ノ權限ニ付テハ法律ハ合名會社ノ代表社員ト同シク各自代表ノ原則ヲ採レリ其他其代表

及ヒ其爲セル不法行爲ニ關スル規定ハ合名會社ノ代表社員ニ付テ爲シタルト同シキカ故ニ茲ニ說明ヲ略スヘシ(一七〇條)唯茲ニ一言スヘキハ取締役ハ會社ノ法定代理人ナリヤ否ヤ是ナリ予ノ信スル所ニ依レハ取締役ハ會社ノ代表機關ニシテ代理人ニ非ストスルヲ法理上正當ナリトスルモ現行法ノ解釋トシテ法定代理、委任代理ノ何レニ屬スルヤト云フニ若シ法定代理人トハ法律上缺クヘカサル代理人ナリトノ意ナリトセハ取締役ハ法定代理人タルコト疑ナシ獨逸學者ハ多クハ此意義ニ於テ取締役ハ法定代理人ナリトセリ又取締役ハ我民事訴訟法上ノ所謂法律上ノ代理人ナルコトハ同理由ニ據リ明白ナルヘシ然レトモ法定代理委任代理ノ區別ニシテ代理權ノ淵源カ委任ニ在ルヤ否ヤヲ標準トスルモノトスレハ此問題ハ容易ニ解決スルコトヲ得ヌ然レトモ予ノ考フル所ニテハ取締役ノ代理權ハ當然其取締役トシテノ地位ニ附著シテ存スルモノニシテ取締役タル地位ハ委任ニ因リ之ヲ取得スルモノナルモ其代理權ハ委任ニ因リテ授與セラレタルモノニ非スト信ス故ニ此意義ニテモ取締役ハ法定代理人ナリト謂フコトヲ得ヘシ取締役カ法定代理人ナリト云フコトト取締役ト會社トノ間ノ關係カ委任ナリト云フコトトハ決シテ混同スヘカラス

#### 第五 權利

取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサルトキハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム(一七九條)其報酬ハ或ハ一定ノ金額ニ依リテ之ヲ定メ或ハ利益ノ幾分ト定ムルコトアリ此外取締役カ委任ニ關

スル規定ニ從ヒ會社ノ爲メニ支出シタル費用ノ償還ヲ求ムルコトヲ得（一條、民六四九條、六五〇條）

### 第三款 監査役

監査役トハ會社ノ業務執行ヲ監督スル會社ノ機關ヲ謂フ我商法カ獨逸法ニ倣ヒテ監査役ヲ設ケタルコトハ既ニ説明セシ所ナリ

監査役ハ之ヲ株主中ヨリ選任スヘキコトハ取締役ト同様ナリ（一八九條、一六四條）其他監査役タルヘキ者ノ資格ハ取締役ニ付テ述ヘタルト同様ナリ唯取締役ニ付テハ定款ヲ以テ一定ノ株式ヲ要スルコトヲ定ムトセルモ監査役ニ付テハ此ノ如キ規定ナシ唯監査役ハ取締役又ハ支配人ト相兼スルコトヲ得サルモノナリ

監査役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任スヘキコトモ取締役ト同シ（一八九條、一六四條）

監査役ニ付テハ員數ノ定ナキカ故ニ一人ニテモ可ナルヘキモ定款ヲ以テ之カ員數ヲ定メ得ヘキハ勿論ナリ

監査役ノ任期ハ一年トス定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得サルノミナラス之ヲ縮少スルコトヲ得ス但其任期滿了後ニ之ヲ再選スルハ妨ナシ（一八〇條）

監査役ト會社トノ關係ハ委任及ヒ準委任ナリ

監査役ノ退任ニ付テモ取締役ト同様ナリ（一八九條）唯法律カ特ニ監査役ハ其破産又ハ禁治産ニ因リ退任スト定メタルハ此點ニ關シテハ定款ノ規定ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ禁スルノ趣意ナリト信ス（一八八條）

監査役カ有スル法定ノ權限ハ次ニ述フルカ如シ此等ノ權限ハ定款ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ス

（一） 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求ムルコトヲ得（一八一條前段）

（二） 會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得（一八一條後段）

（三） 監査役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリト認メタルトキハ其召集ヲ爲スコトヲ得（一八二條）

（四） 監査役ハ會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ會社ヲ代表スルコトヲ得（一八五條）

監査役ノ職務トシテ法律ノ掲クルモノヲ舉クレハ

（一） 取締役カ株主總會ニ提出セシタル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコト（一八四條）

（二） 取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルヲ得ルコト（一八四條）

次ニ監査役ノ責任ニ付テ述ヘンニ

監査役カ其任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキハ勿論ニシテ之ニ對スル會社ノ訴ニ付テハ第一八七條ノ規定アリ尙ホ監査役ニ對シテモ其職務ノ執行ニ付キ過料ノ制限アリ(二六一條、二六二條)監査役ノ權利ニ付テハ報酬其他ニ付キ取締役ニ關スル規定準用セラルヘ(一八九條、一七九條)

## 第五節 會社ノ計算

### 第一款 計算書類ノ作成、公示及ヒ承認

取締役ハ財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書並ニ準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ作成シ監査役ノ調査ヲ經タル後之ヲ定時總會ニ提出シ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス茲ニ營業報告書トハ前營業年度ニ於ケル會社營業ノ狀況ノ報告書ヲ謂ヒ損益計算書トハ前營業年度ニ於ケル收支ヲ記載シタル損益ノ計算書ヲ謂フ損益計算書ノ示ス所ノ利益又ハ損失事項ハ則チ貸借對照表中ノ利益又ハ損益ノ額ト一致スヘキモノナレトモ前者ハ一營業年度ノ計算ヲ示スモノニシテ後者ハ會社ノ財産狀態ヲ明示スヘキモノナレハ其記載セラルヘキ事項ハ二者互ニ異ナレリ

取締役ハ總會ノ承認ヲ得タル後定款ノ定メタル方式ニ從ヒテ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス(二九〇條乃至一九二條、二六一條二號、三號乃至九號)

### 第二款 貸借對照表

株式會社ノ貸借對照表ニ付テハ其貸方ニ掲クヘキ積極財産及ヒ借方ニ掲クヘキ消極財産即チ債務ノ如何ナルモノナルヤ及ヒ其評價ノ方法如何等ニ付テハ特別規定ナキヲ以テ商業帳簿ニ關スル一般規定ノ適用アリ又立法上株式會社ノ貸借對照表ニ付テハ評價方法ニ關スル特別規定ヲ設クルヲ可トスヘキコトハ前ニ述ヘタル所ナリ然レトモ株式會社ノ貸借對照表ハ之ヲ以テ利益配當ノ計算ノ基礎トスヘキモノナレハ其之ニ記載スヘキ項目ハ單ニ會社カ現實ニ有セル財産ノミヲ以テ足レリトセス必スヤ會社ノ有セサルヘカラサル財産額ニ及ハサルヘカラス會社ノ現ニ有セル純財産即チ積極財産額ヨリ債務額ヲ控除シタル殘額カ會社ノ有セサルヘカラサル財産額ニ達セサルトキハ會社ハ損失ヲ負ヘルモノニシテ之ニ反シテ純財産カ會社ノ有セサルヘカラサル財産額ニ超ユルトキハ會社ハ利益ヲ有セルモノナリ故ニ貸借對照表ノ借方ニハ債務ノ外會社ノ有セサルヘカラサル財産額ヲ掲ケサルヘカラス

會社ノ有セサルヘカラサル財産額トシテ借方ニ掲クヘキモノハ第一ニ會社ノ資本ナリ會社ノ資本ハ會社ノ有セサルヘカラサル財産額ヲ表ハセルモノナリ故ニ之ヲ借方ニ掲ケサルヘカラス會社ノ純財産カ會社ノ資本額ニ達セサルトキハ其差額ハ即チ所謂資本ノ缺損ナリ此場合ニ於テハ會社ハ配當スルコトヲ得ヘキ利益ナルモノヲ有セス而シテ茲ニ資本トハ即チ拂込アリタル資本

額ノ謂ニシテ資本總額ノ謂ニ非ス或ハ資本總額ヲ借方ニ掲ケテ未拂込額ヲ借方ニ掲ケタルノ方法ヲ採ルコトアリ此方法ハ獨逸ニ於テハ「ジエモン」之ヲ主張セルモ多ク行ハラスト云フ然レトモ我國ニ於テハ多ク此方法ニ依レリ其結果ニ至リテハ拂込アリタル資本額ヲ借方ニ掲ケタルト差異ナキヲ以テ獨逸ノ千八百八十四年ノ株式會社改正法第二理由書ニハ前ニ述ヘタル二方法ノ孰レヲ採ルモ可ナリトセリ

會社ノ有セサルヘカラサル財産額トシテ借方ニ掲ケヘキ第二ノモノハ法定準備金ナリ資本ハ會社財産ノ理想上ノ額ナリ故ニ會社ノ純財産カ資本額ヲ超ユルコトキハ其之ニ超ユル額ハ會社カ利益トシテ之ヲ配當スヘキコトヲ妨ケス然レトモ悉ク之ヲ配當セシムルコトト爲ストキハ會社ノ安固ヲ缺キ一旦事業上ノ損失又ハ財産價格ノ暴落ニ遭遇スルトキハ資本ニ缺損ヲ生シ株主ハ永ク配當ヲ受クルコト能ハサルニ至ル仍テ法律ハ一定ノ準備金ハ必ス之ヲ積立ツヘキモノトシ其積立テラレタル金額ハ之ヲ借方ニ掲ケ純財産中ヨリ其額ヲ控除スルニ非サレハ配當スヘキ利益ヲ生スヘカラサルモノトセリ之ヲ稱シテ法定準備金ト謂フ

法定準備金ハ二種ノ財源ヨリ積立テラル一ハ利益ヲ配當スル毎ニ其二十分ノ一ヲ積立ツルモノニシテ一ハ額面以上ノ發行ノ場合ニ於ケル額面ヲ超ユル金額ナリ而シテ法定準備金ハ資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ之ヲ積立ツルコトヲ要ス茲ニ資本トハ資本總額ノ意味ニシテ其拂込額ヲ指ス意味ニ非ス(一九四條)

茲ニ一ノ問題ト爲ルハ法定準備金カ資本ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ其之ニ超ユル金額ハ即チ法定準備金ニ非サルモノ換言スレハ任意準備金ナリトシテ之ヲ支出シ得ルヤ否ヤノ點ニ在リ獨逸ノ「ジエモン」「リング」「エッセル」「ヘルゲンハイン」「フェルデルンドルフ」及ヒ「ペーテルゼン」「ベヒマン」等ハ之ヲ否トセルモ「ノイカシプ」「ペーレンド」「スタウプ」「コーザ」等ハ皆之ヲ可トシ判決例ハ後說ニ從ヘリ我商法ノ解釋トシテモ同様ノ問題ヲ生スヘク此場合ニ於テハ後說ニ從ヒテ可ナルヘシ

法定準備金ハ損失ヲ填補スルノ外ハ之ヲ支出スルコトヲ得ス然レトモ損失填補ノ爲メニハ之ヲ支出スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ資本ノ如ク一定不動ノモノニ非ス而シテ一旦積立テラレタル法定準備金ト雖モ損失填補ノ爲メニ減少シタル場合ニ於テハ其減少額ハ資本ノ缺損ノ如ク次年度以後ノ營業年度ニ生シタル利益ノ全額ヲ以テ之ヲ填補スルノ必要ナク仍ホ其二十分ノ一ヲ以テ之ニ充ツレハ足レリ

之ヲ要スルニ會社ノ純財産カ資本額ト前年度ノ法定準備金トノ和ヨリ多キトキハ其差額ハ利益ニシテ更ニ其二十分ノ一ヲ法定準備金ニ積立テ殘餘ヲ配當スルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ若シ前者カ後者ヨリ少キトキハ其差額ハ損失ニシテ法定準備金ノ額ヲ減シテ其損失ヲ填補スルコトヲ得ルモノナリ又若シ法定準備金ノ全額ヲ支出シテ猶ホ損失ヲ存スルトキハ其額ハ即チ資本ノ缺損額ナリ資本ノ缺損アル間ハ永久ニ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得サルヘシ



法定準備金ノ制度ハ獨逸、佛蘭西、伊太利、白耳義、葡萄牙、和蘭、ニアルゲンチン、瑞典及ヒ墨西哥法之ヲ認ム然レトモ其額ハ必スシモ一樣ナラスシテ獨逸及ヒ佛蘭西法ハ資本ノ十分ノ一ニ達スルマデハ利益ノ二十分ノ一ヲ積立ツヘキモノトセリ尙ホ我法律ハ商法以外ニ於テ特別法ヲ以テ認メタル準備金アリ日本銀行條例第一〇條、橫濱正金銀行條例第一九條、取引所ニ關スル明治三十六年八月十四日勅令第一二七號第七條ノ二第一項ノ如キハ即チ是ナリ此等ハ亦一種ノ法定準備金ニシテ法律ニ依リテ定メラレタル目的ノ外ハ擅ニ支出スルコトヲ得サルモノナリ唯保險會社ノ責任準備金ハ準備金ノ名アルモ茲ニ所謂準備金トハ全然觀念ヲ異ニスル別箇ノモノナリ

法定準備金ノ外會社ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依リ準備金ヲ積立ツルコトヲ得ヘク之ヲ稱シテ任意準備金ト謂フ其目的ハ種種アリテ或ハ事業擴張ノ爲メニシ或ハ配當平均ノ爲メニシ或ハ不時ノ災厄ノ爲メニシ或ハ株式消却ノ爲メニシ或ハ社債償還ノ爲メニスル等其目的ハ一之ヲ枚舉スルコトヲ得ス利益ノ一部ヲ次年度ニ繰越ス所謂繰越金モ亦一時的ノ任意準備金ナリ此等ノ任意準備金ハ定款又ハ總會ノ決議ノ定ムル所ニ依リ自由ニ之ヲ支出スルコトヲ得ヘキモノナリ

準備金ニ付キ一言注意スヘキコトハ準備金トハ貸借對照表ノ借方ノ一ノ項目タルニ過キスシテ純然タル數額タルニ止マリ之ヲ控除シテ配當スヘキ利益ヲ算出スル額タルニ過キサルコト是ナリ

リ近來株式會社ノ貸借對照表論ヲ著シテ有名ナル「レーム」ハ會社ノ資本及ヒ準備金ハ即チ控除項目ナリト曰ヘリ是レ或ハ極メテ適當ナル命名ナルヘシ故ニ準備金タル特別ノ財産ノ存スルモノト看ルハ誤ナリ準備金ハ之ニ相當スヘキ財産カ現存スヘキコトヲ示ス數額タルニ過キス或ハ家屋、什器或ハ商品、有價證券ノ如キ會社財産ノ全部ニ涉リテ存在ス其財産中ノ如何ナル部分カ即チ準備金ナルヤハ之ヲ區別セサルコトヲ常トセリ此事ハ屢、誤解セラルヘキ所ナルヲ以テ一言注意スルノ必要アリト信ス

準備金ニ似テ非ナルモノハ所謂減價資金又ハ消却資金ナルモノナリ減價資金トハ會社ノ財産カ漸次其價格ヲ失ヒ其買入價格以下ト爲ル場合ニハ積極財産トシテハ其買入價格ヲ附シ別ニ借方ニ其減價ヲ掲グルニ外ナラス會社カ有セル債權カ全部ノ辨濟ヲ得ルコト能ハサルヘキ場合ニ於テ其辨濟ヲ得ルコト能ハサルヘキ金額ヲ借方ニ掲グルモ亦減價資金ノ一種ナリ此等ハ財産價格表示ノ一方法タルニ過キスシテ準備金ノ觀念トハ全ク異ナレリ

### 第三款 利益ノ配當

會社ノ純財産中ヨリ資本及ヒ前年度ニ於ケル法定準備金ノ額ヲ控除シタル殘額ハ即チ利益ナリ而シテ利益中ヨリ法定準備金トシテ積立ツヘキ金額ヲ控除シタル殘額ハ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得ヘシ(一九五條一項)然レトモ會社カ定款ヲ以テ役員賞與金トシテ役員ニ利益ノ幾分ヲ與

フヘキコトヲ定メ又ハ前ニ述ヘタル利益株ヲ認ムルトキハ利益ノ幾分ヲ割キテ此等ノ支出ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テ株主ハ全部ノ配當ヲ受クルコトヲ得サルニ至ルヘシ法文ニ「損失ヲ填補シ」トアルモ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ正確ナル意義ニ於ケル利益ナルモノヲ生ゼサルヘキコトハ蓋シ當然ニシテ聊カ蛇足ノ規定ナルカ如キ感アリ

會社カ損失アルニ拘ハラス利益ヲ配當シ又ハ法定準備金トシテ積立ツヘキ金額ヲ控除セスシテ利益ヲ配當シタルトキハ會社ノ債權者ハ配當ヲ受ケタル株主ヨリ之ヲ返還セシムルコトヲ得ヘシ（九五條二項）外國法ハ株主カ善意ニ配當金ヲ受取りタル場合ニ於テハ返還スルコトヲ要セサルモノト爲ス例多シ

利益ノ配當ハ如何ナル標準ニ依リテ之ヲ爲スヘキカハ獨逸ノ舊商法時代ニ於テハ三說アリテ或ハ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應スヘシト曰ヒ（「ベールンド」、「ペーテルゼン」、「ベヒマン」）或ハ一般株主ヨリモ多ク拂込ミタル株主ハ其多キ額ニ付キ利息ヲ受クヘシト曰ヘル者アルモ（獨逸帝國高等商事裁判所判決）多數說ハ株式ノ數ニ應スヘキモノト曰ヘリ我商法ハ「利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス」ト規定セリ（一九七條）故ニ定款ニ定ナキ限ハ株式數ニ應シテ之ヲ爲スヘキモノト信ス尙ホ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テハ此原則ニ從ハサルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ（一九七條但書）

利益ノ配當ハ金錢ヲ以テ之ヲ爲ス古ハ現物ヲ以テ配當ヲ爲シタルコトアリテ北米合衆國ノ或州

ノ如キハ今仍ホ之ヲ認ムルモノアルモ他國ノ法律ニテハ之ヲ認メス

株主カ利益ノ配當ヲ求ム得ルコトハ株主權ノ一ノ權能ナリ此利益ノ配當ヲ求ムル權ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ベキヤ一說ニ依レハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得サルハ勿論之ニ制限ヲ加フルコトヲ得スト曰ヘリ（「ルノー」、「カイスネル」）二說ニハ最初ノ定款ニ於テ之ニ關スル規定アルトキハ之ヲ制限シ又ハ全ク奪フコトヲ得レトモ然ラサルトキハ之ニ觸ルルコトヲ得スト曰ヘリ（「アレキサンデル」）三說ニハ之ヲ制限スルコトヲ得レトモ全ク之ヲ奪フコトヲ得スト曰ヘリ（「ノイカンブ」、「リオンカン」及ヒ「ルノー」）然レトモ獨逸ニ於ケル多數說ハ定款ノ規定ヲ以テスルトキハ全ク之ヲ奪フコトヲ得ルモノトセリ我商法ノ解釋トシテモ此最後ノ說ニ從ヒテモ不可ナカルヘシ

株主カ利益ノ配當ヲ求ムルニハ株主總會ノ決議ニ依リテ利益ノ配當ニ關スル議案ヲ決定スルコトヲ要ス而シテ此決議ハ設定的ノ效力ヲ有スルカ又ハ單ニ配當セラルヘキ利益額ノ確認タルニ止マルヤ否ヤニ付テハ議論アリ一說ニハ株主總會ノ決議ハ唯確認ノ效力ヲ有スルニ過キス故ニ總會ノ決議カ法律又ハ定款ニ依リテ株主ニ配當スヘキ利益ヲ配當セサルヘキコトト定メタルトキハ株主ハ之ヲ認メサルコトヲ得ト曰ヘリ（「ルノー」、「ゴルドシュミット」、「ブリムケル」、「カイスネル」、「レーマン」、「グリュンフト」、「リオンカン」等）此說ハ此ノ如ク有力ナル贊成者アルモ予ハ之ヲ認メス株主總會ハ時宜ヲ觀テ配當ヲ制限シ其配當スヘキ利益ヲ後期ニ繰越スコトハ



毫モ妨ナシト信ス(同說「テール」ニ「ラバント」<sup>一</sup>「アレキサンデル」<sup>二</sup>「ギールケ」等)而シテ此ニ說ノ孰レニ依ルモ株主カ利益ノ配當ヲ求ムルハ株主權ノ作用ニシテ其受クヘキ利益ノ配當額カ確定セラレタル時ニ至リテ始メテ之ヲ請求スルノ債權カ發生スルモノナリト看ルニ至リテハ同一ナリ最近ノ我大審院判例ハ株式ハ一種ノ財產權ニシテ會社ニ對シ利益ノ配當ヲ請求シ得ヘキ債權ヲ包含シ此債權ハ株主總會ノ決議ニ因リテ始メテ發生スルモノニ非ストセルハ(明治三十七年三月五日第一民事部判決)我法典ノ解釋トシテハ或ハ已ムコトヲ得サルニ出テタル所ナルヘキモ法理上ヨリ言ヘハ蓋シ誤謬ナルヘシ

#### 第四款 利息ノ配當

株主ハ會社ノ純財產カ資本額ニ超ユルニ非サレハ利益ノ配當ヲ受クルコト能ハサル原則ニ對シタノ例外アリ所謂工事利息配當ノ場合即チ是ナリ工事利息ノ配當ハ資本ノ一部ノ拂戻ニシテ容易ニ開業ヲ見ルニ至ラサルヘキ事業ヲ目的トスル會社即チ鐵道會社等ニ付テ行ハル所ナリ此制度ハ獨逸、匈牙利、伊太利、葡萄牙、瑞西其他一二ノ商法之ヲ認ム

工事利息配當ノ條件ハ次ノ如シ(一九六條)

- 一 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認メラルルコト

二 定款ヲ以テ之ヲ定ムルコト

三 利息カ法定利率ニ超エサルコト

四 定款ノ規定ニ付キ裁判所ノ認可ヲ得ルコト(非訟一三三條)

五 配當スヘキ利息ノ率ヲ登記スルコト(四七條、一四一條一項六號)

工事利息配當ノ割合ハ利益ノ配當ニ付キ述ヘタル所ト全ク同一ナリ(一九七條)

工事利息ノ配當ハ利益ノ配當ニ非サルコト言フ俟タヌ又通常ノ民法上ノ利息ノ觀念ト異ナレリ何トナレハ會社ハ株主ニ對シテ其拂込ミタル金額ヲ返還スルノ債務ハ之ヲ有セサレハナリ故ニ工事利息配當ノ法律上ノ性質ハ法律ノ規定ニ依ル資本ノ一部ノ拂戻ト看テ可ナリ隨テ配當シタル利息ハ貸借對照表中貸方ノ部ニ掲クヘシトスルヲ通説トス(「ジーマン」<sup>一</sup>「ペーレンド」<sup>二</sup>「コーザク」<sup>三</sup>「ピンネル」等、反對說「ルノー」<sup>四</sup>「レーマン」<sup>五</sup>若シ「レーマン」等ノ反對說ニ從ヒ配當セラレタル利息額大ク資本ノ缺損ヲ生スルモノト看ルトキハ開業後暫時ノ間ハ其填補ヲ爲ス爲メニ利益ノ配當ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヘク此ノ如キハ法律ノ精神ニ反スヘシ

利息ノ配當ヲ請求スルノ權利ハ通常ハ株主ノ有スル債權者權ナリト説明セラルルモノノ信スル所ニ依レハ是レ亦株主權ノ一ノ權能タルニ過キヌシテ其配當セラルヘキコトノ確定スルニ至リテ始メテ其金額ヲ請求スル債權ノ生スルモノナリ

工事利息ハ例外的ノ規定ナリ故ニ此以外ニ於テハ會社ハ其株主全體ニ對シテモ又ハ其一部ニ對

シテモ特定ノ利息ヲ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得ス獨逸、匈牙利、伊太利等多數ノ諸國法ハ明文ヲ以テ其趣旨ヲ定ムルモ是レ蓋シ當然ノ規定ナルヘシ然レトモ此事ハ優先株主ニ與フル特定ノ利率ノ優先權ト混同スヘカラス優先株主ハ會社ニ利益アル場合ニ於テ其利益中ヨリ先ツ特定ノ利息ノ配當ヲ受クルニ過キスシテ利益ノ有無ニ拘ハラス一定ノ利息ノ配當ヲ受クルノ意味ニ非ス又此事ハ國家、地方團體其他ノ第三者カ約セル補給利子ト混同スヘカラス補給利子ハ第三者カ之ヲ約スルモノニシテ保證ニ類スルモ主タル債務ハ存在セサルヲ以テ法律上保證ト謂フコトヲ得ス其法律上ノ性質ハ有價ナル場合ト無價ナル場合トニ依リテ消費貸借、贈與又ハ保險類似ノ契約ト爲ル又補給利子ハ會社ニ對シテ約セラルルコトト箇箇ノ株主ニ對シテ約セラルルコトアルモ通常ハ會社ニ對スルモノナリ故ニ獨逸ニ於テハ疑ハシキトキハ會社ニ對スルモノト推定スヘキモノナリトノ判決アリ

## 第五款 検査

少數株主權ノ一トシテ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ノ調査ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ之ヲ稱シテ検査權ト謂フ此検査權ハ少數株主權ノ一トシテ定ヌル規定ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ス(一九八條、非訟一二六條以下)

## 第六節 社債

社債ニ關シテ特別規定ヲ爲セルハ伊太利、白耳義、葡萄牙其他二三ノ商法ニ止マル若シ特別規定ナキ限リ社債ヲ募集スルコトハ會社ノ業務執行ノ一方法トシテ定款ニ規定ナキトキハ取締役ノ之ヲ行ヒ得ル所ナリ獨逸法ノ解釋トシテハ以上ノ如シ唯英米法ニ於テハ原則トシテハ社債ノ募集ニハ特許ヲ要スヘキモノトセリ我商法ハ明治二十三年八月八日法律第六十號社債ニ關スル特別法ヲ改正シ商法中ニ詳密ナル規定ヲ爲セリ故ニ株式會社カ社債ヲ募集スルニハ此等ノ規定ニ從フコトヲ要ス合名會社、合資會社ニ付テハ此等ノ規定ニ該當スヘキ規定ナキヲ以テ或ハ社債ノ募集ヲ爲スコト能ハサルヤノ疑ヲ懷ク者アルモ是レ明白ナル誤解ナリ

### 第一款 社債ノ性質

社債トハ會社カ公衆ヨリ募集スル方法ニ依リテ起シタル負債ニ對スル債權ニシテ之ニ關シテ證券ノ發行セラルルモノヲ謂フ故ニ其性質ハ全ク國債他方債等ト同一ナリ  
社債ノ募集ハ會社ノ營業基金ヲ増加シ之ニ依リテ會社ノ事業ヲ擴張スルカ爲メニセラルルコトヲ常トス其他債務ノ振替ノ爲メニセラルルコトアリ會社ノ營業基金ハ社債ノ募集ニ因リテ増加セラルルモ會社ノ資本ハ毫モ増加セラルルコトナシ資本ハ株式ニ分割セラルルコトヲ要ス社債

ハ株式ニ非ス故ニ社債ノ募集ハ資本ノ増加ヲ生スルコトナシ

社債ハ株式ト異ナル社債ハ會社ニ對スル債權ナリ然ルニ株式ハ株主權ナリ社債權者ハ會社ノ債權者ナリ故ニ第一ニ利益ノ有無ニ拘ハラズ利息ノ請求ヲ爲スコトヲ得第二ニ償還期限ノ到來ニ因リテ償還ヲ受クルコトヲ得第三ニ會社解散ノ場合ニ於テ會社ノ他ノ債權者ト同一ノ地位ニ立チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ然レトモ社債權者ハ株主ニ非サルヲ以テ會社ノ利益ノ分配ニ與リ又ハ總會ニ出席シテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ス

社債ナル債權發生ノ原因タル行爲ノ性質如何之ニ付テハ消費貸借説ト賣買説トアリ「ゴールドシュミット」ハ社債ハ消費貸借ニ因リテ生スルモノトセリ然ルニ「コーザック」ハ之ヲ駁シテ曰ク消費貸借ニ於テハ債務者カ債權者ヨリ受ケタル同數量ノ物ヲ返還スルコトヲ以テ其本質トスルモ(民五八七條)社債ニ於テハ社債ノ發行ハ或ハ額面以上ニ於テ行ハレ或ハ額面以下ニ於テ行ハレ其償還セラルヘキ金額ト會社カ受クル金額ト一致セサルコトヲ常トス故ニ社債ノ發行ハ消費貸借ト謂フコトヲ得スト而シテ「コーザック」ノ説ニ依レハ社債權者ハ社債ヲ表彰スル債券ノ取得ヲ目的トシ之ニ對シテ其代金ヲ支拂フモノナリ故ニ賣買ニ外ナラストスルニ在リ「コーン」「カールケ」等ノ説明セル所亦同シ予ノ見ル所ニ依レハ社債券ハ社債發生ノ後ニ於テ其效果トシテ交付セラルモノタルニ過キス故ニ株式ノ引受カ賣買ニ非サルト同シク社債ノ發行モ亦賣買ニ非ス社債ノ發行ニシテ若シ純然タル消費貸借ニ非ストセハ之ニ類似セル一種ノ契約ニシ

テ之ニ對シテハ費消貸借ニ關スル規定ノ準用アルモノト解シテ可ナルヘシ

## 第二款 社債ニ對スル制限

- 一 社債ハ特別決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス(一九九條)
- 二 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ存在スル財產カ拂込ミタル株金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財產ノ額ニ超ユルコトヲ得ス(二〇〇條、例外日本勸業銀行法、日本興業銀行法、農工銀行法)
- 三 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス(二〇一條、例外貯蓄債券法)
- 四 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス(二〇二條、例外日本勸業銀行法、貯蓄債券法)

## 第三款 社債募集ノ方法

社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ法定ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス(二〇三條)英國ノ千九百年ノ會社法、瑞西債務法、伊太利商法ノ如キハ社債募集ノ場合ニ於テハ目論見書ヲ公告スルコトヲ命セリ蓋シ我商法第二〇三條ト同一ノ趣旨ナリ

社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各社債ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコトヲ要ス(二〇

四條一項) 社債金額ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ二週間内ニ法定ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(二〇四條二項)

#### 第四款 債券

社債ニ付テハ債券ヲ發行ス債券ニハ記名式、無記名式ノ二種ヲ認ムルモ共ニ有價證券ナリ(二〇五條、二〇七條) 債券ノ譲渡及ヒ質入ニ關シテハ略ホ株式ニ同シ(二〇六條、民八六條三項、三六五條)

#### 第五款 社債原簿

社債原簿ハ株主原簿ト相當ルモノナリ(一七一條、一七三條) 社債原簿ノ制度ハ英米法ニ於テ之ヲ認ム

#### 第七節 定款ノ變更

##### 第一款 總論

會社ノ定款ハ會社ノ行動ノ範圍ヲ定ム會社ノ取締役及ヒ監査役ノ如キ機關ハ會社ノ行動ノ範圍内ニ於テノミ行動スルモノナリ故ニ其範圍自體ヲ定ムル規則ナル定款ヲ變更スルコトヲ得ス然

レトモ會社ハ社團法人ニシテ社員ノ總意ハ即チ會社ノ意思トシテ自己ヲ支配スルモノナレハ社員ノ總意ヲ以テスルトキハ其行動ノ範圍自體ヲモ變更スルコトヲ得サルヘカラス故ニ我商法ハ定款ノ變更ヲ認メ「定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得」ト定ム(二〇八條) 此ノ如ク明文ヲ以テ定款ノ變更カ株主總會ノ專屬事項ナルコトヲ定ムルハ獨逸、奧太利、匈牙利、伊太利、白耳義、瑞西、瑞典ノ諸國法ナリ然レトモ此主義ハ必スシモ各國法ノ採レル所ニ非ス英米法ニ於テ法人ハ之ニ對スル人格ノ賦與ニ因リテ其人格ヲ得ルモノナレハ其人格ヲ得タル條件内ニ於テノミ行動スルコトヲ得ルモノト認ムル結果原則トシテハ會社ノ根本的規則ヲ定ムル「メモランダム、オブ、アソシエーション」ハ之ヲ變更スルコトヲ得サルモ「アーチクルス、オブ、アソシエーション」ノミハ之カ變更ヲ許スモノトセリ

定款變更ノ決議ハ特別決議ノ方法ニ依リテ之ヲ爲ス而シテ會社ノ目的變更ノミニ付テハ假決議ノ方法ニ從フコトヲ許サス(二〇九條) 蓋シ定款ノ變更就中目的ノ變更ノ如キハ會社ノ根本的規則ノ變更ニシテ極メテ重要ノ事項ナレハナリ

茲ニ一ノ問題ト爲ルハ定款ノ規定ヲ以テ此決議方法ヲ變更スルコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ定款ヲ以テ此決議方法ヲ輕易ニシ通常決議ニ依ルモ可ナリト爲スハ之ヲ許スヘカザサルコトハ明白ナルモ定款ヲ以テ之ヲ法定ノ方法ヨリ困難ト爲スハ如何予ハ我商法ノ規定ハ獨逸法ト異ナリ定款ヲ以テ此決議方法ヲ變更スルコトハ絕對的ニ許ササルモノト解スルヲ正シト信ス



定款ノ變更ハ以上述ヘタルカ如ク總會ノ決議ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモ會社ハ特定ノ種類ノ會社タルコトニ因リテ其人格ヲ保テルモノナレハ法律ニ定メタル場合ノ外ニ擅ニ其組織ヲ變更シテ異種ノ會社ト爲ルコトヲ得ス又同一ノ理由ニ由リ内國會社ヲシテ外國會社ト爲スコトヲ得ス故ニ會社ヲ其本店ヲ外國ニ移轉シタルトキハ内國會社トシテハ解散シタルモノト謂ハサルヘカラス

## 第二款 資本ノ増加

### 第一 總論

資本ノ増加ハ會社ノ營業擴張ノ爲メニ其基金ヲ増加スル方法トシテ行ハルルコト最モ多シ然レトモ此目的ハ社債ノ募集ヲ爲スコトニ依リテモ達セラレ得ヘシ唯會社ノ純財産ハ社債ノ募集ニ因リテ増加スルコトナキモ資金ノ増加ハ營業基金ノ増加ト共ニ會社ノ純財産ノ増加ヲモ生ス資本ノ増加ハ又屢、社債償還ノ爲メニ行ハルルコトアリ此場合ニ於テハ會社ノ純財産ノ増加ヲ生スルモ會社ノ營業基金ハ毫モ増加セス資本ノ増加ハ又稀ニハ會社ノ純財産ノ増加ヲモ生セサルコトアリ即チ會社ニ巨額ノ任意積立金アル場合ニ於テ其積立金ヲ配當スルコトトシ同時ニ資本ノ増加ヲ爲シ株主ヲシテ現實ニ拂込ヲ爲サシメス會社ヨリ其配當ヲ爲スノ債務ヲ以テ拂込ヲ爲サシムルノ債權ト相殺スルコトトシ以テ其拂込ヲ終ラシムルコトアリ此場合ニハ會社ノ純財産

ハ依然トシテ舊ノ如ク唯貸借對照表ノ貸方ニ於テ任意積立金ヲ減少シテ資本ノ増加ヲ來スニ止マル北米合衆國ニ於テハ屢、株式ノ配當ナルコト行ハル我商法ノ規定ニ依リテモ前述ノ方法ニ依ルトキハ之ト同一ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ

資本ノ増加ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(二一〇條)未拂込金額カ殘存セルトキハ資本ヲ増加スヘキ經濟上ノ必要ナシ若シ此ノ如キ場合ニ於テ新株ノ發行ヲ認ムルトキハ新株ヲ額面以上ニ發行シ其額面超過額ヲ利得スル目的ヲ以テ必要ナキニ新株ヲ發行スルコトト爲リ投機ヲ獎勵スルノ虞アルヲ以テ新商法ハ多數ノ新立法例ニ倣ヒテ之ヲ禁止セリ獨逸、匈牙利、埃太利、西班牙、瑞典「セルビヤ」ノ諸國法ハ之ヲ禁止シ佛蘭西法ニハ此禁止ナシ但此規定ニ對シテハ保險會社ニ付キ例外アリ(保險業法二〇條)蓋シ保險會社ニ於テハ營業基金ハ實際ハ多額タルコトヲ要セス唯萬一ノ場合ニ應スル擔保トシテ資本アレハ足ルモノナルヲ以テ株金全額拂込前ニテモ資本ノ増加ヲ爲スコトヲ得ヘシトセリ獨逸商法ハ其條文中ニ此例外ヲ認ム而シテ我商法ニハ「株金全額拂込ノ後」トアルヲ以テ少額ノ滯納金額ヲ留殘セル場合ニ於テモ資本ノ増加ヲ爲スコトヲ得サルヘシ獨逸新民法ハ少額ノ滯納金額アルコトヲ妨ケスストセリ會社カ此規定ニ反シテ資本ヲ増加シタルトキハ其増加ハ無効ナリ此場合ニ於テハ新株主ハ會社設立無効ノ場合ニ準シテ責任ヲ負フヘキモノナリ(二三三條)ト曰ヘル者アルモ(レーマシ)予ハ特別規定ナキヲ以テ此ノ如キコトヲ認ムルニトヲ得スト信ス

資本増加ノ方法ヲ想像スルトキハ株金額ノ増加、株式數ノ増加及ヒ株金額並ニ株式數ノ増加ノ三ノ方法アルヘシ然レトモ株金額ノ増加ハ株主ノ有限責任ノ原則ニ反スルヲ以テ總株主ノ同意アル場合ニ非サレハ此方法ニ依ルコトヲ得ス故ニ新商法ハ此方法ニ付テハ規定ヲ爲サス舊商法カ此方法ヲ認ムルハ株式會社ノ本質ニ反スルモノト信ス（舊商二〇六條）唯新商法ハ全ク株金額ノ増加ニ依ル資本増加ノ場合ヲ認メサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ付テハ登記其他ニ關シテ疑ヲ生スルコトヲ免レス予ノ解スル所ニテハ此ノ如キ場合ニ於テハ第一四一條第二項ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘキモノナリト信ス以下商法ノ規定ニ從ヒ新株發行ニ依ル資本増加ノ場合ノミニ付キ説明セントス

## 第二 資本増加ノ手續

資本増加ノ爲メニハ先ツ定款變更ノ決議ヲ爲スコトヲ要ス何トナレハ資本ノ總額ハ定款ノ必要の記載事項ニシテ資本増加ノ結果ハ資本總額ノ變更ヲ生スヘクレハナリ然レトモ資本ノ増加ハ此定款變更ノ決議ノミニ因リテ生スルコトナシ此定款變更ノ決議ハ恰モ會社設立ノ場合ニ於テ發起人カ定款ヲ作成スルニ相當ルモノニシテ其決議アルモ現實ニ資本カ増加セラレサル限ハ資本ノ増加ナキコトハ發起人カ定款ヲ作成スルモノノミニテハ會社カ設立セラレサルト同一ナリ故ニ此決議ハ條件附ノ定款變更ヲ生スルモノナリト謂フテ正當ナリト信ス（同說「スタウプ」「レーマン」）何時ニ於テ眞ノ資本ノ増加アルヤニ付テハ後ニ説明スヘシ）故ニ此決議ノミニテ

ハ會社ノ發起事項ニ變更ナキヲ以テ別ニ變更ノ登記ヲ爲スノ必要ナシト信ス

資本増加ノ決議ニ於テハ増加スヘキ資本額ヲ明カニ定ムルコトヲ要ス英吉利ノ模範定款、佛蘭西ノ裁判例ノ如キハ其大體ノ範圍ヲ定ムルヲ以テ足レルモノナリトセルモ獨逸法及ヒ我商法ノ解釋トシテハ此ノ如キコトヲ許ササルモノトスルヲ正當ト信ス（反對說「ペーレンド」「リンド」）定款變更ノ決議アリタルトキハ新株ニ付キ株主ヲ募集セサルヘカラス若シ定款又ハ總會ノ決議ニ因リテ舊株主ニ新株引受ノ優先權ヲ與ヘタルトキハ先ツ舊株主ヲシテ新株ノ申込ヲ爲サシムルコトヲ要ス其來法、獨逸新商法等ニ於テハ反對ノ決議ナキトキハ舊株主ハ必ズ新株引受ノ優先權ヲ有スルモノトセルモ我商法ニハ此ノ如キコトナシ然レトモ舊株主ハ新株ヲ引受クヘキ義務ナキコトハ株主ノ有限責任ノ原則上明白ナルコトナリ

新株ノ申込ハ株式申込證ニ依ルヘキモノナルコトハ非訟事件手續法ニ依リテ明カニセラルルモ（非訟一八九條二項）之ニ記載スヘキ事項ニ付テハ法律上別ニ規定ナシ株式ノ申込、其適當及ヒ申込ノ法律上ノ性質等ニ付テハ設立ノ場合ニ付キ述ヘタルト異ナル所ナシ唯此場合ニ於テハ株式ノ申込ニ對スル承諾者ハ即チ會社ニシテ發起人ニ非ス隨テ新株引受ノ契約ハ申込人ト會社トノ間ニ成立スルモノナリ又株式ノ額面以下ノ發行ヲ爲スコト能ハサルコト及ヒ株式ノ引受ヲ取消シ得ヘキ時期ニ付テモ設立ノ場合ノ規定準用セラルヘシ（二一九條、一二七條、一二八條一項、一四〇條、一四二條）



新株總數ノ引受アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株金四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス額面以上ノ發行ノ場合ニ於テハ同時ニ額面超過額ヲモ拂込マシムルコトヲ要ス尙ホ第一回ノ拂込ニ付テハ第一三〇條ノ規定ノ準用アリ(一二九條、一二八條二項、一二九條、一三〇條)

各株ニ付キ第一回ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス(一二三條)新株募集ニ關スル調査ハ原則トシテハ監査役之ヲ爲シテ報告スヘキモノニシテ略ホ設立ノ場合ニ付キ述ヘタル所ニ同シ現物出資者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減少シ得ヘキコトモ設立ノ場合ト異ナル所ナシ唯現物出資ニ付キ注意スヘキハ此場合ニ於テハ會社ニ對スル債權ヲ以テ拂込債務ト相殺スヘキコトヲ約スルハ仍ホ現物出資ノ一ト解スヘキモノト信ス又獨逸學者ハ會社ノ株式ヲ以テ現物出資ノ目的トシ之ヲ出資シテ新株ヲ取得スルコトヲ得ヘシトスル者アルモ我商法ノ解釋トシテハ之ヲ認ムルコトヲ得サルヘシ(一五一條一項)又引受ナキ株式、第一回拂込未済ナル株式アリタルトキ及ヒ株式ノ申込力取消サレタルトキハ取締役ハ設立ノ場合ニ於ケル發起人ト同一ノ義務ヲ負フ(一二四條、一二六條)之ヲ要スルニ此株主總會ハ恰モ會社設立ノ場合ニ於ケル創立總會ト相當ルモノナルモ唯此總會ニ於テハ新株募集ニ關スル調査ヲ爲スニ止マリ創立總會ノ如ク資本増加ノ廢止、變更増加等ノ額ヲ決議スルコトヲ得ス(一二八條)故ニ新株ノ應募額カ募集額ニ達セザ

ルトキハ擅ニ資本増加ノ額ヲ減スルカ如キコトヲ得ス此ノ如キ場合ニ於テハ資本ノ増加ハ成立セザリシモノニシテ更ニ初ヨリ改メテ其手續ヲ踐ムノ必要アリ

會社ハ前述シタル株主總會招集ノ日ヨリ二週間内ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記事項ハ法律ニ之ヲ規定セリ(一二七條一項、非訟一八九條)

### 第三 資本増加ノ時期

資本増加ノ時期如何ヲ決スルハ新株ノ引受人カ株主ト爲ルノ時期ヲ決定スル爲メニ必要ナリ新株ノ引受人ハ資本ノ増加アリタル時ヨリ株主ト爲ルモノナルヲ以テ其時ヨリ株主トシテノ議決權其他ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノト爲ササルヘカラス又定款ニ別段ノ定ナキトキハ利益若クハ利息ノ配當ハ其株主ト爲リタル時ヨリ之ヲ受クヘキモノトシテ計算セサルヘカラス故ニ資本増加ノ時期如何ハ之ヲ決定スルノ必要アリ獨逸學者ノ多數ハ新株ノ引受人ハ資本増加ノ確定即チ其登記ノ時ニ於テ始メテ株主ト爲ルモノナリトセルモ我商法ノ解釋トシテハ之ニ從フヘキ理由ナシト信ス

資本増加ノ爲メニスル定款變更ノ決議アルモ未タ以テ資本ノ増加アリタルモノト爲スコトヲ得サルハ前ニ述ヘタル所ナリ立法論トシテハ新株ノ募集手續調査ノ爲メニスル總會ノ終結ノ時ニ於テ資本ノ増加アリト爲シ之ヲ以テ創立總會終結ノ時ニ會社カ成立スルト相對應セシムルヲ可トスヘシト信スルモ理論上ハ新株ニ對シテ總數ノ引受アルトキハ之ニ因リテ増加セラレタル資

本ヲ輸出スヘキ義務者カ存在スルニ至リタルモノナルヲ以テ資本ノ増加ハ此時期ニ在リト論スルコト正當ナルヘク隨テ新株總數ノ引受アリタルトキハ引受人ハ株主ト爲ルモノト解スルヲ正當ナリト信ス

資本増加ノ時期ヲ定ムルコトハ尙ホ一ノ實益アリ即チ資本増加以前ニ在リテハ總會ヲ開キ特別決議ノ方法ニ依リテ決議スルトキハ前ノ資本増加ノ決議ヲ取消スコトヲ得ヘキモ既ニ資本ノ増加アリタルトキハ此ノ如キコトヲ爲スコトヲ得サルヘシト信ス

#### 第四 資本増加ノ法律上ノ性質

新株發行ニ依ル資本増加ノ法律上ノ性質ニ付テハ古ノ學者ハ會社カ新株ヲ發行シテ之ヲ賣買スルモノトセリ(「ルノー」)然レトモ株式ハ資本ノ増加ニ因リテ始メテ發生スルモノニシテ資本ノ増加前ニ於テ會社カ株式ヲ所有セルモノニ非サルヲ以テ此說ノ誤レルコトハ多言ヲ要セサルヘシ故ニ「ニッセン」カ一タヒ此說ヲ駁シ且資本ノ増加ハ會社ノ一部ノ新設立ナリト論シタル以來學者ハ概テ皆此說ニ從ヘリ(「ゴールドシュミット」商法雜誌一九卷)此說ハ資本ノ増加ニ付キ別ニ規定ヲ設ケサル多數ノ諸國法ノ解釋ヲ爲スニハ極メテ便宜ニシテ之ニ依リテ設立ノ場合ノ規定ヲ新株發行ノ場合ニ準用スルコトヲ得ヘキコト爲ルヘシ然レトモ予ノ信スル所ニ據レハ會社ハ新株ノ發行ニ因リテ其人格ヲ變スルモノニ非ス依然トシテ舊會社ナルヲ以テ資本ノ増加ハ會社ノ一部ノ新設立ナリト云フハ形容詞トシテハ適當ナルヘキモ嚴格ナル法理上ノ觀念

ニ非サルモノト信ス(「スタウプ」ピンネル)ハ予ト同說ナリ(況ヤ我商法ハ設立ニ關スル規定ハ一之ヲ資本増加ノ場合ニ準スヘキ旨ヲ明カニ定ムルヲ以テ此說ヲ採ラサリシモノト謂フコトヲ得ヘシ予ハ資本ノ増加ハ會社ノ定款變更ノ一ノ場合ニシテ之ニ因リテ會社ノ資本金額カ増加セラルモノナリトスル以上ノ説明ヲ試ムルノ必要ヲ感セス新株ノ發行ニ依ル資本増加ノ場合ニ於テハ之ヲ以テ株式ノ増加新株主ノ收容ナリト論スルモ可ナリト信ス

### 第三款 資本ノ減少

#### 第一 總論

資本減少ノ必要ハ二様ノ場合ニ生ス第一ハ會社ノ營業力最初ニ計算セラレタルカ如ク巨額ノ資本ヲ要セサル場合ニシテ此場合ニハ會社ハ其不必要ナル額大ク資本ヲ減少スルノ必要ヲ生ス第二ハ會社カ著大ナル損害ヲ被リ資本ニ缺損ヲ生シタル結果各營業年度ノ利益金ハ其缺損ノ填補ニ充ツルコトヲ要シ株主ニ配當ヲ爲スコト能ハサル場合ニシテ此場合ニハ資本ヲ減少シテ以テ其缺損ヲ減スルノ必要ヲ生ス學者ハ第一ノ場合ヲ以テ實質的ノ減少、第二ノ場合ヲ以テ計算上ノ減少ト稱スル者アリ第一ノ場合ニ於テハ實質的ニ會社ノ財産ヲ減少スルモノニシテ第二ノ場合ニ於テハ單ニ計算上ニ於テ資本ノ金額ヲ減少スルニ止マレハナリ

資本減少ノ方法ハ必スシモ一ナラス我商法ハ之ヲ總會ノ決議ニ讓リテ限定セス(一一〇條)學

者カ資本減少ノ方法トシテ舉クル所ヲ觀ルニ其實質ニハ大ナル差異ナキモ其分類ハ必スシモ一ナラス「ゴールドシユミット」ノ舉クル所ハ最モ解シ易キヲ以テ之ニ從ヒテ説明セントス其說ニ據レハ資本減少ノ方法ニ三アリ第一ハ株金額ノ減少ナリ而シテ株金額ノ減少ニハ更ニ三ノ場合ヲ想像スルコトヲ得ヘシ一ハ株金額ノ拂込ヲ終ラサル場合ニ於ケル其一部ノ拂込ノ免除、二ハ株金一部ノ拂戻、三ハ資本ニ缺損アル場合ニ於ケル株金額ノ單純ナル減少ナリ而シテ株金額減少ノ方法ヲ探ルトキニ於テモ株金額ハ法定ノ最少額即チ五十圓ヲ下ルコトヲ得サルヲ以テ此方法ハ株金額ハ五十圓以上ナル場合ノ外ハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二ハ株式數ノ減少ナリ此方法ニハ亦更ニ二ノ方法アリ一ハ株式ノ消却、二ハ株式ノ併合ナリ株式ノ消却ニ付テハ前ニ述ヘタルヲ以テ茲ニハ其併合ノミニ付キ説明スヘシ株式ノ併合トハ例ヘハ五十圓株二株ヲ併合シテ五十圓株一株ト爲スノ類ニシテ總テノ株主カ皆併合ニ適スヘキ株式ノ數ヲ有セルトキハ此方法ヲ探ルコトヲ得ヘキモ例ヘハ一株ノ株主ノ如キ者アルトキ其他併合ニ適セサル數ノ株式ヲ有スル株主アルトキハ其併合ニ適セサル株式即チ端株ハ如何ニスヘキヤノ問題ヲ生ス獨逸舊商法ノ下ニ於テハ學者間ニ爭アリテ或學者ハ併合ニ適セサル株式ヲ有スル株主ニハ併合ニ適スル數ノ株式ヲ取得セシムヘク若シ之ヲ取得セサルトキハ強制シテ其株式ヲ讓渡サシムヘシトセリ「ペーレンド」「マコーグナー」「ヘルゲンハーン」獨逸ノ千八百八十四年改正法案理由書、獨逸帝國裁斷所ノ判決例ハ此說ニ從ヘリ然レトモ此ノ如キハ株主ノ有限責

任ノ原則ニ背反スルモノナルヲ以テ多數ノ學者ハ此ノ如キ強制的ノ方法ニ依ルコトヲ得サルモノトセリ獨逸帝國高等商事裁判所ノ判決例亦然リ獨逸新商法ハ此爭ヲ決スル爲メニ明文ヲ以テ第一ノ趣旨ヲ定メ資本減少ノ場合ニ於テハ會社ハ株主ヲシテ其株券ヲ會社ニ提供セシメ之ヲ提供セサルカ又ハ新ニ發行スヘキ株券ヲ交付スルニ足ル數ノ株券ヲ提供セスシテ其處分ヲ會社ニ委託セサルトキハ會社ハ其株券ノ無効ヲ宣言シ其無効ト爲リタル株券ニ代ヘ新株券ヲ發行シ之ヲ取引所ノ價格ニ依リ賣却スルカ又ハ之ヲ就賣シ其代金ヲ前ノ株式數ニ應ジテ從前ノ株主ニ返還スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタリ佛蘭西商法ノ解釋トシテモ株式ノ併合ハ之ヲ強制シ得ヘキヤ否ヤニ付キ前述シタルト同シキニノ說アリ「ターレル」等ハ強制ヲ許スヘキモノトセルモ「リオンカン」及ヒ「ルノー」等ノ多數說ハ之ヲ否トセリ我商法ニハ獨逸新商法ノ如キ規定ナキヲ以テ株式ノ讓渡ヲ強制シ又ハ其無効ヲ宣言スルカ如キコトヲ得サルモノト解スルヲ正當ト信ス第三ハ株金額ノ減少ト株式數ノ減少ト併セ行フノ方法ナリ之ニ付テハ別ニ説明スヘキモノナシ

## 第二 資本減少ノ手續

資本ノ減少ニ付テハ資本増加ノ場合ト同一ノ理由ニ依リ先ツ定款變更ノ決議ヲ爲スコトヲ要ス而シテ此決議モ亦資本増加ノ決議ト同シク直チニ資本ノ減少ヲ生スルモノニ非ス隨テ此決議ノミニ依リテ登記事項ニ變更ヲ生シタルモノトシテ其變更ノ登記ヲ爲スヘカラサルコトハ仍ホ資本

本増加ノ場合ニ同シ獨逸學者カ資本減少ノ決議ニ付キ説明セル所ハ必スシモ資本増加ノ決議ト同シカラス「スタツプ」(ヘルゲンハーン)ノ如キハ資本減少ノ決議アルトキハ直チニ資本ノ減少アリタルモノトシテ貸借對照表中ノ資本額ヲ減少スルコトヲ得ルモノナリト曰ヘルモ是レ必スシモ通説ニ非サルノミナラス(反對說「リング」ブッヘルト「ビンネル」ジーンモン等)我商法ハ合併ニ關スル規定ヲ資本減少ノ場合ニ準用セルヲ以テ我商法ノ解釋トシテ資本減少ノ決議トハ合併ニ關スル規定ノ別物ナルコトハ合併ノ決議ト合併トノ別物ナルニ同シ  
資本減少ノ決議ニ於テハ減少スヘキ資本額ヲ明カニ定ムルコトヲ要スルハ資本増加ノ場合ニ同シ尙ホ此場合ニ於テハ同時ニ資本減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要シ其方法モ亦明カニ之ヲ定ムルコトヲ要スルヲ以テス此點ニ關シテ明瞭ナル決議ナキトキハ其決議ハ資本減少ノ決議タル效力ナキモノト謂ハサルヘカラス但其實行方法ノ細綱ニ至リテハ或程度マテ取締役ニ之ヲ一任スルコトヲ得ヘシト信ス(二二〇條一項)

資本減少ノ決議アリタルトキハ會社ハ合併ニ關スル規定ニ從ヒ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り會社ノ債權者ニ對シ一定ノ期限内ニ異議ヲ述フヘキコトヲ公告シ且知レタル債權者ニ其旨ヲ催告スルコトヲ要ス異議ヲ述ヘタル債權者ニハ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス會社カ此等ノ手續ヲ履ムニ付キ缺漏アリタルトキハ會社ハ資本ノ減少ヲ以テ其債權者ノ全部又ハ一部ニ對抗スルコトヲ得ス(二二〇條二項)蓋シ會社ノ資本ハ會社債權者ノ唯一ノ擔保ナルヲ以

テ其減少ハ即チ其擔保ノ減少ヲ生スルカ故ニ法律ハ會社債權者ノ保護ノ爲メニ此ノ如キ嚴格ナル規定ヲ設ケタルナリ獨逸法ハ略ホ會社解散ノ場合ニ準スヘキ手續ヲ爲スヘキモノトセリ其他諸國法中ニハ裁判所ヲシテ之ニ干渉セシムヘキモノトセルモノアリ

會社カ前述シタル會社債權者ニ對シテ踐ムヘキ手續ヲ終リタルトキハ會社ハ資本ノ減少ヲ爲スコトヲ得ヘシ會社ノ資本ノ減少ハ株金額ノ單純ナル切捨又ハ拂込ノ免除ノ場合ニ於テハ簡單ナル計算ノミニ止マルモ其他ノ場合ニ於テハ株式ノ併合消却、株金額ノ拂戻等ノ手續ヲ終リタル後ニ於テ始メテ資本ノ減少ヲ生スルモノト謂ハサルヘカラス但株券ニ付テハ其書換又ハ新株券ノ交付等ノ手續ヲ終ラサルモ資本ノ減少アリタルモノト謂フコトヲ得ヘシト信ス

資本ノ減少アリタルトキハ二週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(一四一條二項、五三條)其手續ハ非訟事件手續法中ニ特ニ之ヲ定ム(非訟一九〇條)

資本ノ減少ニ付キ一言スヘキハ資本ノ減少ハ資本ノ増加ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得ルコト是ナリ獨逸帝國高等商事裁判所ハ嘗テ此ノ如キ場合ヲ認メタルコトアリ會社ニ資本ノ缺損アル場合ニ於テハ資本ノ減少ニ依リテ其缺損ヲ填補シ同時ニ資本ノ増加ニ依リテ其資本金額ヲ復舊スルコトヲ得ヘシ唯資本ノ減少ト同時ニ其増加ヲ爲ス場合ニ於テモ其各別ノ手續ヲ一一履踐スルコトヲ要スルハ勿論ナリ

尙ホ茲ニ一言スヘキハ資本減少ノ決議ハ後ニ至リテ之ヲ取消シ得ルヤ否ヤ是ナリ「レーマン」ハ



其決議カ登記ニ因リテ確定セラレタルトキハ特別決議ニ依リテモ之ヲ取消スコトヲ得ス資本減少ノ決議ニ因リテ株主ハ其減少セラレタル金額ニ付テハ最早義務ヲ負擔セサルコトヲ爲リタルモノナレハ總株主ノ同意アルニ非サレハ其決議ヲ撤回スルコトヲ得ス但別ニ資本増加ノ決議ヲ爲シテ復舊スルコトハ妨ナシト曰ヘリ然レトモ予ノ信スル所ニ據レハ我商法ハ資本減少ノ決議ト資本ノ減少トヲ區別セルヲ以テ株主ノ責任ハ其決議ノミニ因リテハ輕減セラルコトナクシテ會社カ其債權者ニ對シテ踐ムヘキ手續ヲ終リタル時ニ於テ始メテ株主ハ決議ノ趣旨ニ從ヒテ其責任ヲ輕減セラレ隨テ會社ニ對シテ拂戻サルヘキ金額ヲ請求シ得ルニ至ルモノナレハ此時期ニ至ルマテハ特別決議ニ依ルトキハ資本減少ノ決議ヲ取消スコトヲ得ルモノナレハ此時期以後ニ至リテハ總株主ノ同意アルニ非サレハ前決議ヲ撤回スルコトヲ得ス又資本ノ減少アリタル後ニ於テハ前ノ決議ハ既ニ其效力ヲ生シ終リタルモノナレハ最早之ヲ撤回スルコトヲ得スシテ唯資本ノ増加ニ依リテノミ舊狀ニ復スルコトヲ得ヘキモノト爲ルヘシ

### 第三 資本減少ノ法律上ノ性質

資本減少ノ法律上ノ性質ニ付テモ資本増加ノ場合ト同シク之ヲ以テ會社ノ一部ノ解散ナリト曰ヘル者アリ(マッスマン)此說ハ資本ノ増加ヲ以テ會社ノ一部ノ新設立ナリト曰ヘル說ト同シク形容詞トシテ採用シ得ヘキモノタルニ止マリ資本ノ減少ニ因リテ會社ノ人格ニ變更ヲ生スルモノニ非ス又會社ノ一部ノ解散スルモノニ非サルコトハ殆ト辯明ヲ俟タル所ナルヘシト信ス故ニ資本ノ減少ハ會社ノ資本額カ減少セラルル定款變更ノ一ノ場合ナリト説明スルノ外説明ノ方法ナカルヘシ唯其結果タルヤ會社ノ債權者ニ利害ノ影響ヲ與フルコト大ナルヲ以テ法律ハ其保護ノ爲メニ通常ノ定款變更ノ場合ト異ナレル特別規定ヲ爲セルノミナリト信ス而シテ資本ノ減少ハ必スシモ株式ノ減少ヲ來スモノニ非サルカ故ニ之ヲ以テ株式ノ減少ナリ一部株主ノ退社ナリト説明スルハ誤ナリ又反對ニ株主ノ減少ハ必スシモ資本ノ減少ヲ伴フモノニ非サルコトハ株式ノ消却ニ付キ説明シタルカ如シ

## 第八節 解散

解散ノ法律上ノ性質ニ付テハ大體合名會社ニ付キ説明シタル所ト異ナル所ナキヲ以テ之カ説明ヲ省略スヘシ

### 第一 解散ノ事由

解散ノ事由ハ略ホ合名會社ニ付キ述ヘタル所ニ同シ唯總社員ノ同意ニ代フルニ株主總會ノ決議ヲ以テシ社員カ一人ト爲リタルコトニ代フルニ株主カ七人未満ニ減シタルコトヲ以テセルト及ビ社員ノ請求ニ因リテ裁判所ハ判決ヲ以テ會社ヲ解散スル場合ヲ認メサルトノ點合名會社ノ場合ト異ナルノミ(二二條、七四條、八三條)解散ノ決議ハ特別決議ノ方法ニ依ルコトヲ要ス(二二條)

## 第二 解散ノ效果

解散ノ效果モ亦略ホ合名會社ニ付キ説明シタル所ニ同シ會社力解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シテ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(二二四條)又會社力解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外其登記ヲ爲スコトヲ要ス(二二五條、七六條)

## 第三 合併

合併ニ付テハ凡テ合名會社ニ關スル規定ノ準用アリ(二二五條)唯株式會社ニ關スル特別規定ハ二アリテ合併ノ決議ハ特別決議ノ方法ニ依ルモノトシ(二二二條)又合併ノ決議ニ付キ記名株ノ讓渡ノ制限ヲ認ム(二三三條)第二二三條ノ規定ハ合併ニ際シ株主ノ變更ヨリ生スヘキ不便ト弊害トヲ妨クルノ目的ナリト云フニ在ルカ如キモ寧ロ理由ニ乏シキモノナリト信ス

## 第九節 清算

株式會社モ亦解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ尙ホ存續スルモノト看做サルル點ニ於テハ合名會社ニ異ナラス(二三四條、八四條)解散後ノ會社ノ性質ニ付テハ別ニ新ニ述フヘキコトナシ唯會社ノ機關及ヒ株主ノ權利ニ付キ一言セントス

會社ハ解散ニ因リテ營業能力ヲ失フヲ以テ會社ノ營業上ノ機關ナル取締役ハ其地位ヲ失ヒ清算

事務ヲ執行スル機關ナル清算人之ニ代ル故ニ清算會社ノ代表及ヒ業務執行ノ機關ハ即チ清算人ナリ之ニ反シテ監査役及ヒ株主總會ハ依然トシテ存在セリ蓋シ株主總會ハ會社ノ最高ノ意思機關ナレハ清算ノ範圍内ニ於テ會社ノ意思ヲ決定スル爲メニ必要ニシテ監査役ハ會社ノ監督機關ナレハ會社ノ清算事務ヲ監督スルニ必要ナレハナリ又株主ノ權利ハ會社力營業能力ヲ失フノ結果利益又ハ利息ノ配當ヲ求ムルノ權利ハ當然消滅スルモ其他ノ權利ハ消滅セス又株式ノ讓渡ハ會社清算中ト雖モ勿論之ヲ爲スコトヲ妨ケラレス(二三四條、一五九條、一六〇條、一六三條、一七六條乃至一七八條、一八一條、一八三條乃至一八五條、一八七條)

合名會社ノ清算ニ付テハ前ニ述ヘタルカ如ク法律ハ任意清算ノ方法ヲ認メ此方法ヲ採ラサル場合ニ於テ始メテ法定ノ清算ヲ爲スヘキモノトセリ然ルニ株式會社ニ於テハ破産ト合併トノ場合ヲ除ク外ハ必ス法律ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要シ隨テ會社ノ營業ヲ舉ケテ株主中ノ一人若クハ第三者ニ讓渡スカ如キ又ハ會社財産ヲ現物ニテ分配スルカ如キコトハ之ヲ許ササルモノト解スルヲ正當ナリトス換言スレハ合名會社、合資會社ニ於テハ法定清算ニ關スル規定ハ任意規定ナリ然ルニ株式會社、株式合資會社ニ於テハ之ニ反シテ清算ニ關スル法律ノ規定ハ悉ク皆公益規定ニシテ縱令株主全員ノ同意アルモ之ニ從ハサルコトト爲スコトヲ得ス

## 第一 清算人タルヘキ者、其選任及ヒ終任

清算人ニ四種アリ法律上ノ清算人、定款ノ規定ニ依ル清算人(二二六條一項)株主總會ノ選任



ニ依ル清算人(二二六條一項)及ヒ裁判所ノ選任ニ依ル清算人(二二六條二項、二三四條、八九條)是ナリ株式會社ニ於ケル法律上ノ清算人ハ取締役タル者ナリ(二二六條一項)清算人ノ解任ニ關シテハ第二二八條ノ特別規定アリ又清算人ノ選任、變更及ヒ解任ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス(二三四條、九〇條、九七條)

## 第二 清算人ノ職務、權限

清算人ノ職務ニ付テハ殘餘財産ノ分配ヲ除クノ外ハ略ホ合名會社ニ付キ述ヘタル所ニ同シ(二三四條、九一條、九二條)

清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求メ之ヲ公告スルコトヲ要ス(二二七條)又就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ二箇月ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス又知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス(二三四條、民七九條)清算人ハ其催告ヲ爲シタル期間内ニ或債權者ニ對シテ辨濟ニ著手スルコトヲ得ス(二六二條一〇號)其期間以後ニ至リテハ申出タル債權者ハ會社ノ債務完済ノ後未タ株主ニ分配セサル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得(二三四條、民八〇條)

清算人ハ會社財産ヲ以テ先ツ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シ然ル後ニ始メテ株主ニ殘餘財産ノ分配ヲ爲スコトヲ得(二三四條、九五條、二六二條一〇號)其分配ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ

割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但優先株ヲ發行シタル場合ハ此限ニ在ラス(二二九條)

清算人ハ總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ請求スルコトヲ要ス(二三一一條)

清算人ノ權限ニ付テハ合名會社ニ付キ述ヘタル所ニ同シ(二三四條、九一條二項、三項、九三條)尙ホ株式會社ノ清算人ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得其他取締役ニ關スル第一七六條、第一七七條ノ規定ノ準用アリ(二三四條)

## 第三 清算ノ結了

清算事務カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク清算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス株主總會ニ於テ承認ヲ爲シタルトキハ清算人ハ不法行為ナキ限ハ其責任ヲ免除セラル(二三〇條、一五八條二項、一九三條)清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク其登記ヲ爲スコトヲ要ス(二三四條、九九條)

## 第四 書類ノ保存

會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス(二三三條)

## 第五 會社設立ノ無効

會社ノ設立無効ニ付テハ先ツ如何ナル場合ニ設立ノ無効ナルヤヲ説明スルコトヲ要ス而シテ設立ニ關スル如何ナル規定ハ之ニ違反シタル設立ヲシテ無効タラシムルヤ及ヒ定款中ニ法律ノ如何ナル規定ニ違反シタル規定アリタルトキハ設立ヲシテ無効タラシムルヤハ其ニ極メテ困難ナル問題ナリ此點ニ關シテハ各國ノ立法例ニ大凡三ノ主義アリ(一)佛蘭西、葡萄牙及ヒ(二)南米諸國法ハ明文ヲ以テ設立ノ無効ヲ生スヘキ疑ハシキ場合ノ規定ヲ爲セリ然レトモ其總テノ場合ヲ列舉セルニ非ス而シテ其規定ヲ爲セルニ無効原因ハ尠シトセス(三)之ニ反シテ英米法ハ會社ハ人格ノ賦與證ニ因リテ其設立手續ノ初期ニ於テ人格ヲ取得スルモノトシ其人格賦與證ニ至大ノ設備の效力ヲ與ヘ以テ設立無効ノ場合ヲ生セサルモノトセリ然レトモ(三)多數ノ商法ハ設立ノ無効ニ付テハ極メテ不完全ナル規定ヲ爲セルカ或ハ全ク規定ヲ爲サスシテ之ヲ學說ノ決スル所ニ任セリ我商法ハ最後ノ立法例ニ屬セルモノナリ獨逸新商法ハ明文上疑問ヲ生セシメサルコトヲ力メタレトモ尙ホ其解釋トシテ學者ノ説明セル所ハ決シテ一致セス

我商法ノ解釋トシテ如何ナル場合ニ會社ノ設立ノ無効ヲ生スヘキヤニ付テハ煩ヲ避ケ極メテ簡單ニ予ノ信スル所ヲ紹介セントス第一一七人ノ發起人ハ絕對的ニ必要ナリ若シ發起人カ七人ニ達セザリシトキハ設立ハ無効ナリ例ヘハ七人ノ發起人アリトセラレタル場合ニ於テ實ハ六人ノ發起人アルニ止マリシトキハ會社ハ法律上ニ於テハ成立セス第二ニ定款ノ作成ハ絕對的ニ必要ナリ而シテ定款ニハ後ニ至リテ補足スルコトヲ許ササル絕對的必要事項ハ總テ記載セラレタル

コトヲ要シ之ヲ缺キタル定款ハ無効ナルヲ以テ隨テ其定款ノ作成ナカリシモノト爲ル然ラハ定款中ニ違法ノ規定アリタルトキハ其定款ハ無効ト爲ルヤ否ヤ予ハ定款中ノ違法ノ規定ハ必スシモ當ニ定款全部ヲ無効トスルモノニ非スシテ原則トシテハ其違法ノ規定ノミヲ無効トスルニ止マルヘシト信ス故ニ絕對的必要事項ニ關スル規定カ違法ニ非サル以上ハ定款ハ無効ト爲ルコトナカルヘシ第三ニ株式總數ノ引受モ亦設立ニ必要ナルモ複雜設立ノ場合ニ於テハ引受ナキ株式又ハ引受カ取消サレタル株式アリタルトキハ發起人カ之ヲ引受クヘキモノナルヲ以テ其總數ノ引受ハ此場合ニハ必要ナルヘシ第四ニ第一回ノ拂込ハ必スシモ總株式ニ付キ之アリタルコトヲ必要トセス唯發起人カ全ク第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘキ手續ヲ取ラザリシトキハ設立ハ無効ト爲ルヘシ第五ニ創立事項ノ報告、取締役及ヒ監査役ノ選任並ニ設立手續ノ調査ノ如キ事モ全ク此等ノ手續ヲ爲ササルトキハ設立ハ無効ト爲ルヘキモ其手續ニ欠缺アリ又選任ノ無効タリシトキノ如キハ會社ノ設立ヲ無効ト爲スモノニ非スト解シテ可ナルヘシ第六ニ創立總會ノ招集及ヒ決議ハ必要ナルモ其招集ノ手續又ハ決議ノ方法ニ關スル缺點ハ決議無効ノ訴カ法定ノ條件ヲ履ミテ提起セラレサルコトニ因リテ癒セラルヘキモノナリト信ス

會社カ事業ニ著手シタル後設立ノ無効カ發見セラレタル場合ニ於テハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スヘキコト並ニ其會社ノ法律上ノ性質如何ニ付テハ合名會社ニ付キ述ヘタル所ニ同シキヲ以テ之カ説明ヲ省略スヘシ(三三條)

## 第五章 株式合資會社

株式合資會社ノ起源ニ付テハ學者ノ研究ハ未タ十分明確ナル結果ヲ齎ラスコトヲ得ス然レトモ「ルノー」「ギールケー」等ノ說ニ依レハ合資會社ノ前身タル「アコンマンチター」ニ應用スルニ株式會社ノ組織ヲ以テシ其出資者ノ變更ヲ容易ニシタルニ始マレルカ如シ嘗テ述ヘタル伊太利ノ聖「アンブロード」銀行、千七百十六年五月二日ニ設立セラレタル有名ナル佛蘭西ノ「ロー」會社ノ如キハ株式合資會社ニ類似シタル組織ヲ有シタリト云フ然レトモ路易第十四世ノ商業條例ハ未タ此制度ヲ認メサリシナリ

佛蘭西商法ハ合資會社ニ付キ其資本ヲ株式ニ分ツ場合ヲ認メタルモ之ニ關シテハ特ニ特別ノ規定ヲ設ケサリシ（同商三八條）其結果株式會社ニ關スル嚴格ナル規定ノ適用ヲ受クルカ爲メニ有名無實ノ無限責任社員ヲ置キタル株式合資會社ヲ設ケ大ニ害毒ヲ流シタリ爾後之カ防止ニ付テハ種種ノ方法ヲ採リタル後千八百六十七年ノ改正法ニ依リテ株式會社ニ付キ免許ヲ必要トセサルモノトシテ之ニ代フルニ嚴格ナル規定ヲ設ケタルト同時ニ株式合資會社ニ付テモ亦第一條乃至第二〇條ノ嚴格ナル規定ヲ設ケタル獨逸ニ於テハ其舊商法ハ主トシテ普通西草案ニ基キテ株式合資會社ヲ設ケタルモノニシテ其設立ニハ免許ヲ必要トスルモノトシタルモ千八百七十年ニ至リ之ニ修正ヲ加ヘテ免許ヲ必要トセサルモノトセリ而シテ更ニ千八百八十四年法ニ依リテ

大改正ヲ加ヘ遂ニ新商法ニ至リタリ新商法ハ舊商法以來株式合資會社ヲ以テ合資會社ノ一種トシ之ト共ニ規定セシテ改メテ之ヲ以テ獨立ノ一ノ會社組織トシテ其規定ヲ株式會社ノ次ニ置キ主トシテ株式會社ノ規定ヲ準用スヘキモノトセリ英國法ニ於テハ株式合資會社ノ制裁ナキモ取締役ノ責任ヲ無限トシ以テ之ニ類似スル組織ヲ取ルコトヲ得ヘキモノトセルコトハ前ニ述ヘタル所ナリ其他ノ各國法中伊太利商法、西班牙商法ハ株式合資會社ヲ以テ合資會社ノ一種トシ其規定ハ株式會社ニ關スル規定ト共ニ規定セリ葡萄牙法ハ亦之ヲ合資會社ノ一分類トシ株式會社ニ關スル規定ノ準用アルモノトセリ之ニ反シテ瑞西債務法ハ株式會社ノ章中ニ其規定ヲ爲セリ又白耳義法ハ之ニ付キ獨立ノ規定ヲ爲セリ

我商法ニ於テハ舊法ハ株式合資會社ヲ認メサリシモ新法ハ之ヲ認メ殊ニ獨逸新商法ニ倣ヒ之ヲ以テ獨立ノ一ノ會社ト爲シ株式會社ノ次ニ其規定ヲ爲セリ然レトモ實際ニ於テハ株式合資會社ナルモノノ設立ハ未タ極メテ稀ナルカ如シ蓋シ株式合資會社ナルモノハ猶ホ立憲君主國ノ如ク無限責任社員ノ行動ハ株主總會ニ依リテ制肘セラルルカ故ニ無限責任社員ハ自由ニ其使倆ヲ發揮スルニ付テハ專制君主國ノ合資會社ニ如カス又株主ナルモノハ無限責任社員ト同等ノ地位ニ立ツモノニ非サルカ故ニ多數ノ株主ヲ募リテ巨額ヲ集ムルコトハ共和國の株式會社ニ如カルヲ以テナリ

# 第一節 株式合資會社ノ意義

株式合資會社トハ一部ノ社員カ會社ノ債務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負ヒ他ノ一部ノ社員ハ出資ヲ以テ株式ニ分タレタル資本ニ與リ其責任ハ豫メ確定セララル金額ヲ限度トスル會社ヲ謂フ

(一) 株式合資會社ニ於テハ一部ノ社員カ會社ノ債務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負フコトヲ要ス之ヲ無限責任社員ト謂フ(二三五條)無限責任社員ノ責任其他ノ關係ハ略ホ合資會社ノ無限責任社員ニ同シ故ニ法律ハ次ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトセリ(二三六條一項)

- 一 無限責任社員相互間ノ關係
- 二 無限責任社員ト株主トノ關係
- 三 無限責任社員ト第三者トノ關係
- 四 無限責任社員ノ退社

法律ハ無限責任社員相互間ノ關係並ニ之ト株主トノ關係ヲ舉クレトモ無限責任社員ト會社トノ間ノ關係ハ之ヲ認メス是レ聊カ法律ニ缺漏アルモノト謂ハサルヘカラスト信ス

(二) 株式合資會社ニ於テハ一部ノ社員ハ出資ヲ以テ株式ニ分タレタル資本ニ與リテ其責任ハ豫メ確定セララル金額ヲ限度トスルコトヲ要ス之ヲ株主ト謂フ(二三五條)株主ノ責任其他ノ關

係ハ株式會社ノ株主ト大體ニ於テ同シク株主ニハ株式會社ノ株主ニ關スル規定ヲ準用アリ(二三六條二項)而シテ無限責任社員ハ株主タルノ資格ヲ兼有スルコトヲ得ヘク此場合ニハ無限責任社員ハ同時ニ株主タルモノナリ唯無限責任社員タル株主ハ株主總會ニ於テ議決ニ加ハルコトヲ得ス又凡テ議決權ニ關シテハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ハ算入セラレサルナリ(二三八條二項二號、二四〇條)

(三) 株式合資會社ハ會社ナリ即チ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ確定セラレタル社團法人ナリ株式合資會社ハ商業ヲ目的トスヘキコトハ株式會社ニ異ナラス千八百七十年以後ノ獨逸法ハ株式合資會社ハ株式會社ト同シク其目的ノ商業ニ在ルト否トヲ問ハス商會社タルモノトセリ

株式合資會社ノ社員數ニハ株式會社ノ如キ制限ナシ故ニ無限責任社員ト株主ト各一人アルトキハ會社ハ成立スヘク又無限責任社員若クハ株主ノ全員カ消滅スルニ非サレハ會社ハ解散スルコトナシ(二三七條、二四六條、二四八條)獨逸新商法ハ株式合資會社ニ付テモ亦五人以上ノ發起人ヲ要スルモノトセリ此點ニ於テハ我商法ハ獨逸舊商法ト同一ナリト謂ハサルヘカラス尙ホ獨逸舊商法ノ解釋トシテモ「ルノー」「リング」「スタウプ」等ノ法文カ有限責任社員ニ付キ複數ノ文字ヲ用ヒタル理由ヲ以テ會社設立ノ際ニハ有限責任社員ハ三人以上アルコトヲ要スト曰ヘルモ「ミートレンド」ノ如キハ有限責任社員ハ一人ニテモ可ナリト曰ヘリ我商法ノ解釋トシテハ後說ニ



從ヒテ妨ナカルヘシ一人ノ株主ナルモ株主總會ヲ組織スルニ十分ナルコトニ付テハ獨逸ニ於テハ帝國裁判所ノ判決アリ而シテ株式合資會社ノ無限責任社員又ハ株主タルコトヲ得ヘキ者ノ資格ニ付テハ合資會社及ヒ株式會社ニ付キ述ヘタル所ニ同シ

株式合資會社ハ法人ナリ此點ニ付テハ獨逸舊商法ノ下ニハ爭アリタリ獨逸學者ノ多數ハ株式合資會社ノ沿革ニ重キヲ置キ又其舊商法カ株式合資會社ヲ以テ合資會社ノ一種トセルヲ看之ヲ以テ合資會社ノ變態ナリトシ株主ノ團體ハ即チ通常ノ合資會社ニ於ケル有限責任社員ノ地位ニ當ルモノトシ株式合資會社ハ株主ヨリ成レル有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ組織セラレタル合資會社ナリト曰ヒ又ハ有限責任社員ノ離出スル資本ヲ株式ニ分チタル合資會社ナリト曰ヒ隨テ之ヲ以テ法人ニ非ストシタリ又「エンゲマン」「クンツエ」「コーザック」等ノ一派ノ學者ハ株主ノ團體ハ即チ一ノ株式會社ニシテ株式合資會社ナルモノハ一ノ株式會社ヲ以テ有限責任社員ト爲セル合資會社ナリト曰ヘリ此說ニ從フモ株主ノ團體ハ人格者ト爲ルモ株式合資會社自身ハ仍ホ法人ニ非ス唯「スタウプ」ノミハ之ヲ以テ合資會社ノ一種ニモ非ス又株式會社ノ一種ニモ非ナル獨立ノ種類ノ會社ニシテ且法人ナリト曰ヘリ獨逸新商法ハ之ヲ獨立ノ會社トシ株式會社ニ關スル規定ハ一般之ニ準用アリトセル結果學者ハ概ネ皆「スタウプ」カ舊商法ノ下ニ於テ爲セル説明ト同一ノ説明ヲ爲シ之ヲ以テ獨立ノ種類ノ會社ニシテ且法人ナリト曰ヘリ唯「コーザック」ハ仍ホ前說ヲ固守シテ之ヲ法人ニ非ストシ「マコーウェル」ハ之ヲ法人トスルト同時

ニ株主團體モ亦獨立ノ人格者ナリトセリ又「ビンネル」ハ之ヲ以テ株式會社ノ一ノ變態ナリト曰ヘリ然レトモ此等ハ通說ト謂フコトヲ得ス我商法ノ解釋トシテハ獨逸新商法ノ下ニ於ケル通說ニ從ヒ株式合資會社ハ合資會社株式會社ノ孰レニモ屬セサル獨立ノ種類ノ會社ナリト説明スルヲ可ナリトスヘク其法人ナルコトハ勿論ナリ然レトモ株式會社ニ關スル規定ハ之ニ對シテ一般之ニ準用アリ(二三六條二項)

## 第二節 會社ノ設立

株式合資會社ヲ設立スルニハ無限責任社員カ發起人ト爲リテ定款ヲ作り略ホ株式會社ノ複雜設立ノ場合ト同一ノ手續ニ依リテ株主ヲ募集シ創立總會ヲ開キ之ニ依リテ之ヲ爲ス(二三七條乃至二四二條)獨逸新商法ハ株主タルヘキ者モ亦發起人タルコトヲ得ルモノトシ隨チ單純設立ノ場合ヲモ認ム我商法ハ此點ニ付テハ獨逸舊商法ト同一ナリ

發起人タル無限責任社員ハ創立總會ノ決議ニ加ハルコトヲ得ス(二四〇條)然レトモ其創立總會ノ決議ノ效力ハ株式會社ニ於ケル創立總會ト同一ナルコトヲ得スシテ總令創立總會ニ於テ定款ヲ變更スヘキモノト定ムルモ無限責任社員ハ之ニ反對スルコトヲ得ヘク其反對ノ結果ハ會社ハ設立セラレサルコトト爲ルモノト解セサルヘカラス此點ニ關シテハ法律ノ規定ニハ缺漏アルモ第二四四條ノ精神ハ之ヲ場合ニ及ホササルヘカラスト信ス

### 第三節 社員ノ權利義務

無限責任社員ハ會社ニ對シテハ定款ノ定ムル所ニ依リテ出資ヲ爲スノ義務ヲ負ヒ又就業禁止ニ服シ會社ノ債權者ニ對シテハ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス此等ハ總テ合資會社ニ關スル規定ニ從フモノナリ(二三六條一項一號二號)

無限責任社員ノ有セル權利ハ會社ノ業務ニ與ルノ權利利益ノ配當及ヒ殘餘財産ノ分配ニ與ルノ權利ノ二種アリ此等ハ會社ノ機關計算並ニ清算ノ節ニ於テ説明セントス

無限責任社員ノ持分ノ讓渡ハ第二四四條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要シ之ニ從ヒテ爲シタル場合ニ非サレハ讓渡ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス(二四四條、五九條)

株主ノ責任カ有限責任ナルコトハ株式會社ノ株主ト全ク同一ナリ株主ノ權利ニ至リテモ亦之ト異ナル所ナシ(二三六條二項)唯其組織スル所ノ株主總會ナルモノハ次節ニ於テ説明スルカ如ク會社ノ最高機關ニ非スシテ無限責任社員ト對立スルモノニ過キサルカ故ニ株主ノ會社ノ業務ニ與ルノ權即チ所謂享益權ナルモノハ其形式ニ於テハ株式會社ノ株主ト異ナル所ナキモ其實質ニ至リテハ大ニ之ト軒輊アルモノト謂ハサルヘカラス

### 第四節 會社ノ機關

會社ノ機關ハ會社ヲ代表スヘキ社員、監査役及ヒ株主總會ノ三ナリ獨逸學者ハ無限責任社員ヲ以テ會社ノ機關ナリトセリ然レトモ我商法ハ定款又ハ第二四四條ノ規定ニ依リ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定ムルコトヲ得ヘキモノトシ會社ヲ代表スヘキ社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ノ準用アルヘキモノトセルヲ以テ(二三六條一項一號、二號、一一四條、二四二條五號、二四三條)代表權ヲ有セサル無限責任社員ハ當然業務執行權ヲモ有セサルモノト看ルヲ正當ナリトスヘク此等ノ社員ハ唯監視權ヲ有シ及ヒ合資會社ニ於テハ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付キ同意ヲ與フルノ權能ノミヲ有スルニ止マルモノト信ス(二四四條、二三六條、一項一號、一〇五條、五四條、民六七三條)獨逸學者ハ又監査役及ヒ株主總會ヲ以テ株主團體ノ機關ナリト爲セル者アリ是レ前ニ述ヘタル株主團體ヲ以テ一ノ有限責任社員ニ當ルヘキモノト看タル結果ナルヘシ然レトモ予ハ此等ノモノハ會社ノ機關ナリト看ルヘキモノト信ス

#### 第一 會社ヲ代表スヘキ社員

會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル通常ノ機關ナル點ニ於テハ株式會社ノ取締役ト同一ナリ會社ヲ代表スヘキ社員ナルモノハ法律上當然ノ機關ニシテ株主總會ニ於テ選任セラルル所ニ非ス隨テ又之カ決議ノミニ依リテ解任セラルルコトナシ此點ニ於テハ恰モ君主

ノ如キ地位ヲ有シ株式會社ノ取締役カ大統領ノ如キ地位ヲ有スルト異ナレリ故ニ法律ハ取締役ニ關スル規定ハ一般のニ之カ適用アルモノトセルニ拘ハラヌ第一六四條乃至第一六八條、第一七五條及ヒ第一七九條ノ適用ヲ除外セリ(二四三條)

## 第二 監査役

監査役カ會社ノ監督機關ナルコトハ株式會社ニ於ケルト同一ニシテ株式會社ノ監査役ニ關スル規定ハ之カ準用アリ(二三四條二項)然レトモ監査役ハ又同時ニ株主全體ノ機關トシテ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムルノ責任スルモノナリ(二四五條)第二四五條ハ獨逸商法第三二八條ト同シク監査役カ株主全體ノ機關タリ其代表者タルコトノ意味ヲ前提トセル規定ナリト解釋スルニ非サレハ其存在ノ理由ヲ知ルコトヲ得ス

## 第三 株主總會

株主總會ハ會社社員ノ一部タル株主ノ總意ヲ發表スル機關タルニ止マル故ニ株式會社ニ於ケル株主總會ト異ナリ會社ノ意思ヲ決定スル最高ノ機關ニ非ス無限責任社員ハ總會ノ決議ノ強制ヲ受クルコトナク總會ノ決議ハ無限責任社員ノ同意ヲ待テテ始メテ會社ノ意思トシテノ效力ヲ生ス(二三六條一項二號)尙ホ法律ハ合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ無限責任社員ノ一致ト株主總會ニ於ケル特別決議方法ニ依リタル決議トアルコトヲ要ストセリ(二四四條)

株主總會ノ地位ハ株式會社ニ於ケルモノト根本的ノ差異アルコトハ前述シタルカ如キモ之ニ關シテハ株式會社ノ株主總會ニ關スル規定ハ一般的ニ其準用アリ(二三六條二項)唯無限責任社員ハ株主タルノ資格ニ於テモ其決議ニ與ルコトヲ得シテ其株式ハ議決權ニ關シテ算入セラレサルハ前ニ述ヘタルカ如シ

## 第五節 會社ノ計算

無限責任社員相互間及ヒ無限責任社員ト株主全體トノ間ノ損益分配ノ標準ハ定款ノ定ムル所ニ依ル若シ定款ニ之カ規定ナキトキハ合資會社ニ關スル規定ニ從ヒ出資額ニ依リテ之ヲ決スルノ外ナシト信ス(二三六條一項二號二號)例ヘハ無限責任社員カ各一萬圓ノ出資ヲ爲シ拂込ヲ終リタル株金總額カ亦一萬圓ナルトキハ利益ハ各無限責任社員ト株主全體トノ間ニ於テ等分シテ配當ヲ受クルコトト爲ル然レトモ株主全體ノ持分ナルモノハ消極ト爲ルコトナキコトハ合資會社ニ付テ述ヘタル所ニ同シク株主ハ如何ナル場合ニ於テモ豫メ確定セラレタル金額ヲ超エテ負擔ノ責任スルニ至ルコトナシ

株式合資會社ノ計算ニ關シテハ總テ株式會社ノ規定ニ從フ(二三六條二項、二四三條)唯茲ニ一言スヘキハ無限責任社員ノ財產出資額ハ之ヲ貸借對照表ノ借方ニ記載スルコトヲ要シ會社ハ其純財產中ヨリ資本、法定準備金ノ外尙ホ無限責任社員ノ財產出資額ヲモ控除スルニ非サレハ

利益ノ配當ヲ爲スコト能ハス然レトモ法定準備金ノ制限ハ資本ノ四分ノ一ニ達スルヲ以テ足レ  
リトスルカ故ニ之ヲ算出スルニ付キ無限責任社員ノ出資額ハ之ヲ計算ニ入ルルノ必要ナキモノ  
ト解シテ可ナルヘシ  
利益ノ分配ニ付テハ株主總會ノ決議ニ依リテ自由ニ決定シ得ヘキコトハ株主カ受クヘキ利益ノ  
分配ノミニ關スル無限責任社員カ受クヘキ利益ノ配當ニ付テハ株主總會ハ其計算ノ正否以外ニ  
於テ容喙ノ權利ナキモノト謂ハサルヘカラスト信ス  
工事利息ノ配當ハ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノト信スルモ其配當ハ唯株主ニ對シテノミ之ヲ爲ス  
コトヲ得ヘキモノト解シテ可ナルヘシ

## 第六節 社債

社債ニ對シテハ總テ株式會社ニ關スル規定ノ適用アリ別ニ説明スヘキコトナシ

## 第七節 定款ノ變更

定款ノ變更ハ第二四四條ノ規定ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ會社ノ資本増加ノ外新無限  
責任社員ノ入社又ハ無限責任社員ノ出資ノ増加モ亦定款變更ノ一ノ場合ナリ又會社ノ資本減少  
ノ外無限責任社員ノ出資ノ減少モ亦同シ(二三七條三號、四號)而シテ無限責任社員ノ出資ノ

減少ハ資本減少ノ如キ煩雜ナル手續ヲ賤ムコトナクシテ之ヲ行フコトヲ得ヘキモ法律ニ定メタ  
ル期間内ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキモ法律ニ定メタル期間内ハ之ヲ以テ  
會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(二三六條一項二號、一〇五條、六六條)

## 第八節 無限責任社員ノ退社

無限責任社員ハ合資會社ニ關スル規定ニ從ヒテ退社ス(二三六條一項三號)其餘名ハ第二四四  
條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノト解シテ可ナルヘシ(一〇五條七〇條)

## 第九節 會社ノ解散

株式合資會社ノ解散事由ハ合資會社ニ同シ但社員ノ請求ニ因リ裁判所ノ判決ヲ以テスル場合ノ  
ミハ株式合資會社ニハ之ナシ(二四六條)無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テハ株主  
ハ特別決議ニ依リテ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得(二四七條)是レ所謂組織變更ノ  
一ノ場合ナリ

## 第十節 清算

株式合資會社ニ於テモ會社カ解散シタルトキハ合併又ハ破産ノ場合ヲ除ク外必ス法律ノ規定ニ



從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其規定ハ大體ニ於テ株式會社ニ關スル規定ト同一ナリ(二二  
三六條二項、二四八條乃至二五一條)

### 第十一節 組織變更

株式合資會社ニ付テハ法律ハ其解散事由カ發生セサル場合ニ於テモ仍ホ其組織ヲ變更シテ株式  
會社ト爲スコトヲ認ム組織變更ハ第二四四條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトシ債  
權者ニ對シテハ合併ノ場合ト同一ノ手續ヲ取ルヘキモリトセリ但此手續ヲ踐ムニ缺漏アリタル  
トキハ合併ノ場合ノ如ク債權者ノ全員又ハ一部ニ對抗スルコトヲ得サルニ止マラスシテ組織變  
更目體カ無效ト爲ルモノトセリ此點ハ合併ノ場合ト異ナル所ナリ(二五二條乃至二五四條)  
組織變更ノ效果ハ會社ノ組織ノ變更タルニ止マリ會社ノ人格ニハ變更ナシ故ニ「ギールケー」  
「ベールンド」等ノ言フカ如ク株式會社カ新設セラレテ舊株式合資會社ノ權利義務ヲ包括的ニ承  
繼スルノ觀念ニ非ス

## 第六章 外國會社

外國會社ニ關スル規定ヲ商法中ニ設クルハ其例寧ロ尠シ唯白耳義ノ千八百七十三年ノ法律何牙  
利、伊太利、葡萄牙ニアルゲンチン」以下二三ノ商法アルノミ我商法ハ此等諸國ノ立法例ニ倣

ヒ外國會社ニ關スル規定ヲ爲セリ

### 第一節 外國會社ノ意義

外國會社ノ意義ヲ定ムルニハ先ツ內國會社ノ意義ヲ定ムルコトヲ要ス何トナレハ內國會社、外  
國會社ノ區別ハ國際私法上ノ問題トシテ之ヲ決定スルノ必要アルコトハ勿論ナルモ我國法上內  
國會社ノ意義ヲ定メ得ヘキトキハ縱令其解釋ヨリ生スル決定カ國際私法家ノ議論ト合致セサル  
モ之ヲ以テ內國會社、外國會社ノ分界ト爲ササルヘカラサレハナリ而シテ予ノ信スル所ニ據レ  
ハ內國會社ニ非サルモノハ之ヲ外國會社ナリト謂フコトヲ得ヘク我商法ヲ解釋スルニ當リテハ  
同時ニ內國會社タル外國會社ヲ認ムルコトヲ得ス又內國會社ニ非サル會社ニシテ外國會社ニ非  
サルモノヲ認ムルコトヲ得サレハナリ故ニ先ツ內國會社ノ意義ヲ定メ然ル後ニ如何ナルモノ  
カ內國會社ニ非サル會社即チ外國會社ナルヤヲ決シ以テ外國會社ノ觀念ヲ明カニシ之ニ附加シ  
テ我國法カ外國會社ト爲セルモノカ果シテ國際私法ノ通説ニ合セルヤ否ヤヲ批評的ニ論セント  
ス

內國會社タルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ予ノ信スル所ニ據レハ內國會社タル爲メニハ第一ニ  
我法律ニ從ヒテ設立セラルコトヲ要ス是レ殆ト明白ナル事由ニシテ深ク論スルノ必要ナカル  
ヘシ何トナレハ內國會社タル爲メニハ我法律ニ依リテ會社ト認メラルモノタルコトヲ要シ我

法律カ會社ト認ムルハ我法律ニ從ヒテ設立セラルルモノニ限ラルレハナリ第二ニ我國ニ本店ヲ有スルコトヲ要ス何トナレハ我商法ニ依レハ本店ノ所在地ニ於ケル登記ハ會社ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ條件ナリ然ルニ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル會社ハ會社トシテ完全ナル生存ヲ保タルモノト謂フコトヲ得ス本店ノ所在地ニ於ケル登記ト勿論我國法ニ從ヒテ爲スモノヲ謂フモノナルカ故ニ本店ノ所在地カ日本ノ領土内ニ在ラサル以上ハ其登記ヲ爲スコトヲ得サレハナリ唯多少ノ疑ヲ生スル清韓二國ニ於ケル我居留地ニ本店ヲ有スル會社ナルモ是ハ特別ノ事項ニ涉ルヲ以テ茲ニ之ヲ説明セス

以上ノ二要件ノ外ニハ法律上別ニ要件ナルモノアルヲ見ス第一ニハ會社ノ設立者又ハ其社員ノ國籍ノ如何ハ問フ所ニ非ス外國人ノミニテ內國會社ヲ設立スルモ毫モ我商法ニ抵觸スル所ナシ尙ホ國際私法上ノ議論ヨリ言フモ社員ノ國籍ニ依リテ法人ノ國籍ヲ決セントスルノ議論ハ今日ニ於テハ殆ト之ヲ主張スル者ナシ第二ニ設立地ノ內國ナルト外國ナルトハ是レ亦問フ所ニ非ス我商法ヲ觀ルニ設立地ノ內國ニ在ラサルヘカラサルコトヲ要求セルノ規定ハ毫モ之ヲシ又國際私法ヨリ言フモ設立地ニ依リテ法人ノ國籍ヲ決セントスルノ論者ハ極メテ寥寥タルモノニシテ或ハ株式會社ニ付キ株主募集ノ地ヲ以テ國籍ヲ決セントスルノ學者アルモ殆ト賛成者ナキモノ如シ

故ニ我法律ニ依リテ設立セラレ且我國ニ本店ヲ有セル會社ハ我法律ノ認ムル內國會社ナリ然レ

トモ此二ノ要件中一ノ要件即チ我法律ニ從ヒテ設立スルトハ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ左右スルコトヲ得ヘキモノナレハ若シ之ヲ當事者ノ自由ニ任ストキハ或ハ其實內國會社トスヘキモノナルモ我法律ノ羈絆ヲ免ルルカ爲メニ我法律ニ從ハサルモノトシ以テ內國會社ト爲ラサルコトヲ生スヘシ又外國ニ於テ之ヲ設立スル場合ニ於テハ當事者ノ意思明カナラサルトキハ却テ其設立地法ニ依リテ設立シタルモノト爲ルコトアリ(法例七條、八條)故ニ我商法ハ特定ノ會社ハ必ス我法律ニ從ヒテ之ヲ設立スヘキモノト定メ隨テ之ヲ以テ內國會社トシテ設立スヘキモノトセリ第二五八條ハ即チ其趣意ヲ定メタリ同條ニ依レハ日本ニ本店ヲ設タル會社及ヒ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ必ス我法律ニ從ヒテ之ヲ設立スルコトヲ要シ隨テ必ス內國會社トシテ設立スルコトヲ要スルモノトサリ此規定ハ字句ニ於テ多少不穩當ナル點アリテ或ハ此ノ如キ會社ハ本來ハ外國會社タルニ拘ハラズ內國會社ニ關スル規定ニ從フモノトセラレタルヤノ觀アリ又或ハ日本ニ於テ設立スル會社ハ常ニ內國會社ナルヤノ觀アリ商法修正案參考書ノ説明ヲ見ルニ亦甚タ曖昧ナレハ此規定ヲ批難セル學者尠カラサルモ予ハ此規定ニ該當セル白耳義千八百七十三年法ノ第一二九條、伊太利商法第二三〇條第四項、葡萄牙商法第一一〇條「アルゲンチン」商法第二八六條等ニ比照シ之ヲ解シテ以上ニ述ヘタルノ主義ニ外ナラストスル者ナリ

之ヲ要スルニ我法律ニ從ヒテ設立セラレ又我國ニ本店ヲ有セル會社ハ即チ當然內國會社ナリ而

シテ我國ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ第二五八條ノ規定ニ依リテ必ス內國會社タルコトヲ要スル結果日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ必ス日本ニ本店ヲ設クルコトヲ要スルモノト爲ルニ依リテ外國會社トシテ國際私法學者ノ論スル所ヲ觀ルニ前ニ述ヘタルカ如ク設立者若クハ社員ノ國籍又ハ設立地ニ依リテ會社ノ國籍ヲ決セントスルノ議論ハ殆ト之ヲ採ル者ナシ又準據法ノミニ依リテ會社ノ國籍ヲ定ムヘキモノトスレハ會社ノ國籍ハ設立者ニ於テ極メテ任意ニ之ヲ選擇シ得ヘキモノト爲リ換言スレハ設立者ノ意思ノミニ依リテ如何ナル國ノ會社トモ爲スコトヲ得ルモノト爲リ極メテ不都合ナル結果ヲ生スルヲ以テ此主義モ亦國際私法上之ヲ採ルコトヲ得ス故ニ學者ノ殆ト總テハ會社ノ住所即チ本店所在地ヲ以テ會社ノ國籍ヲ決スヘキモノト論セリ千八百八十九年八月十二日乃至十七日ニ巴里ニ於テ開カレタル株式會社ニ關スル國際會議ニ於テモ此主義ニ基キテ決議ヲ爲セリ又千八百九十一年九月ニ「ハンブルグ」ニ於テ開カレタル國際法學會ニ於テモ佛蘭西ノ「リオンカーン」ノ報告ニ基キテ決議ヲ爲シ「株式會社ノ本國ハ虛偽ナク其法律上ノ住所カ設ケラレタル地トス」ト決セリ故ニ此主義ハ殆ト世界ノ公論ト謂フモ可ナルヘシ今此主義ヲ以テ我商法ニ適用センニ我商法カ內國會社タル爲メニハ必ス日本ニ本店ヲ有スルコトヲ要ストシ又日本ニ本店ヲ設クル會社ハ常ニ內國會社トシテ定ムルハ此主義ニ適合セルモノナリ白耳義、伊太利、葡萄牙法ノ如キモ亦此點ニ於テハ我商法ト同一ナリ唯伊太利、葡萄牙法ハ本店ヲ

内地ニ設クルコト以外ニ於テ内地ニ於テ主タル營業ヲ爲スコトヲ要スルコトトセリ然レニ我商法カ日本ニ於テ營業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ必ス內國會社タルヘキモノトセリ點ハ此主義ニ合セルモノト謂フコトヲ得ス此點ニ付キ説明スル爲メニハ先ツ本店ノ意義ヲ明カニセサルヘカラス會社ノ本店ハ會社ノ營業ノ本據ニシテ會社ノ營業全體ニ涉リテ指揮ヲ爲スノ主腦ヲ具備スル所ナラサルヘカラス而シテ本店ハ虛偽ノ本店ニテハ不可ナリ營業ノ主腦タル機關ヲ具備セスシテ唯名義上ニ於テ本店ト云フカ如キハ法律上ノ本店ト謂フコトヲ得ス國際法學會ノ決議ニ「虛偽ナク會社ノ法律上ノ住所カ設ケラレタル地」ト云ヘルハ其意味ニ外ナラス故ニ現實ニ我國ニ營業ノ主腦ヲ具備スル營業所ヲ置クモノハ其營業所ノ名義ノ本店タル支店タルト問ハス之ヲ以テ內國會社ト爲ササルヘカラス然ルニ其所謂本店ハ果シテ虛偽ナルヤ否ヤハ事實問題ニ屬スルモ之ヲ判定スルコトハ極メテ困難ナリ我商法ハ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ內國會社タルヘキモノトセリハ「此困難ナル問題ヲ決スルノ煩ヲ避ケ外國ニ虛偽ノ本店ヲ設ケテ以テ日本ノ法律ノ羈絆ヲ免レントスルヲ防止セントスルノ趣意ニ外ナラスト信ス然レトモ會社ノ本店ノ所在地ハ必スシモ會社ノ營業地ト一致スルコトヲ要セスシテ內國ニ真正ノ本店ヲ設ケ外國ニ於テ事業ヲ營ム會社モ必スシモ絶無トセス我國ノ京釜鐵道會社ノ如キハ其實例ナリ白耳義法又ハ我商法ノ規定ニ依レハ此ノ如キ會社ハ當然內國會社ナリ故ニ之ト反對ニ外國ニ真正ナル本店ヲ有セル會社カ我國ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的

トスル場合ニ於テ其本店所在地ノ國法カ我商法若クハ自耳義法ノ如キ規定ヲ有スルモキ又ハ若シ此ノ如キ規定ヲ有セザルモ國際私法學者ノ通説ニ從ヒテ之カ論決ヲ爲ストキハ其會社ハ本店所在地ノ國ノ會社ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ我商法ハ此ノ如キモノモ亦內國會社タルヘキモノトセルヲ以テ其結果ハ所謂重國籍即チ積極的ノ國籍衝突ヲ惹起スルニ至ルヘシ例ヘハ假ニ朝鮮國ニ於テ我商法第二五八條ニ該當スヘキ規定アリトスレハ京釜鐵道會社ハ我國ノ內國會社タルト同時ニ朝鮮國ノ會社タルコト爲ルヘシ此點ニ於テ我商法ノ採リタル主義ハ虛偽ノ本店ヲ外國ニ設クルコトヲ制スルニ急ナル爲メニ國際私法ノ通説ニ反シタル主義ヲ採リタルモノニシテ其結果重國籍ヲ生スルノ原因ヲ成セルモノナリ而シテ此點ニ於テハ外國法中「アルゲンチン」商法ノ規定ハ我商法ト同意意ナリ

以上ヲ以テ內國會社ノ意義ヲ明カニセリ隨テ內國會社ニ非サル會社ハ外國會社ナレハ外國會社ノ意義モ消極的ニ明カニセラレタルモノナリ然レトモ我商法カ外國會社ト稱セルハ此ノ如キ廣義ノ外國會社中ノ如何ナルモノナルヤハ次ニ之ヲ決定スルコトヲ要スル問題ナリ

我商法ノ所謂會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立セラレタル社團法人ヲ謂フ外國法ニ依ル會社中ニハ商行爲ヲ爲スヲ業トスルコトヲ要件ト爲ササルモノアリ又法人ニ非サルモノアルコトハ皆テ述ヘタル所ナリ我商法ノ所謂外國會社タル爲メニハ商業ヲ目的トスルコトト法人タルコトトノ二條件ヲ要スルヤ否ヤハ之ヲ決定スルノ必要アリ我民法ハ法人タル外國會社

ニ付テノミ其成立ヲ認許スルモ(民三六條)我商法ノ所謂外國會社ハ必スシモ法人タルコトヲ要セスト信ス何トナレハ民法第三六條ト商法第二五五條以下ノ規定トハ直接ニ關係ナク民法ハ法人ノ人格ヲ認ムルコトニ付キ規定ヲ爲セルモノニシテ商法ハ外國會社ノ取締ノ爲メニ規定ヲ爲セルモノナレハナリ然レトモ外國會社トシテ商法中ノ特別規定ノ適用ヲ受クヘキモノハ商業ヲ目的トスルモノニ限ラルヘシ民法ハ外國會社ハ商事會社ニ非サレハ人格ヲ認メス若シ商法ノ所謂外國會社中ニハ商業ヲ目的トセザルモノヲモ含ムモノトスルトキハ此等ノ會社ハ民法ニ依リテ人格ヲ認メラレサルニ拘ハラス商法ノ規定ニハ從ハサルヘカラサルコトト爲リ極メテ不穩當ナル結果ヲ生スヘケレハナリ而シテ其會社カ商業ヲ目的トスルヤ否ヤノ標準即チ何ヲ以テ商行爲トスルヤハ如何ナル國ノ法律ニ依リテ之ヲ判定スヘキヤ予ハ仍ホ我商法ニ依リテ之ヲ判定スヘキモノト信ス(尙ホ外國會社ノ意義ニ付テハ法學協學雜誌二卷五號山田博士ノ論文及ヒ法學志林三八號志田博士ノ論文ヲ參照スヘシ)

## 第二節 外國會社ニ適用スヘキ特別規定

(一) 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(二五五條乃至二五七條、二六一條二號、非訟事件手續法二〇二條以下)

(二) 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定メ其姓名、住所ヲ登記



スルコトヲ要ス其代表者ノ代理權ニ制限ヲ加フルモ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（二五五條二項、三項、二五六條、二六一條一號）

（三）外國會社ノ株式ノ發行及ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡ニ關シテハ我商法中ノ特別規定ノ適用アリ（二五九條）

（四）外國會社ニ對シテハ裁判所ハ法定ノ場合ニ於テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得（二六〇條、非訟二二六條、一三四條、一三五條、一三五條ノ二）

商法會社 終

法學士松本烝治講述

# 商法會社

法政大學發行

## 商法會社目次

緒言	一
第一章 總論	六
第一節 會社ノ意義	六
第二節 會社ノ種類	一四
第三節 會社設立ノ登記	二三
第四節 不法會社ノ解散	二八
第五節 特別法ニ依ル會社	二九
第二章 合名會社	三〇
第一節 合名會社ノ意義	三二
第二節 會社ノ設立	三五
第三節 會社ノ内部ノ關係	四〇
第一款 出資	四二
第二款 業務ノ執行	四八
第三款 損益ノ分配	五四

商會

商會

第四款 就業禁止	五六
第五款 持分ノ處分	五八
第四節 會社ノ外部ノ關係	六三
第一款 會社ノ代表	六三
第二款 社員ノ責任	六七
第三款 會社ノ資本	七三
第五節 社員ノ入社及ヒ退社	七六
第一款 入社	七七
第二款 退社	七七
第三項 退社ノ原因	八〇
第二項 退社ノ效果	八四
第六節 解散	八九
第一款 解散ノ原因	九〇
第二款 解散ノ效果	九四
第三款 合併	九五
第七節 清算	一〇二

第三章 合資會社

第一款 任意清算	一〇四
第二款 法定清算	一〇六
第三款 書類ノ保存	一二三
第四款 會社設立ノ取消	一二四
第一款 合資會社ノ意義	一二五
第二節 會社ノ設立	一二七
第三節 會社ノ内部ノ關係	一二二
第四節 會社ノ外部ノ關係	一二七
第五節 社員ノ入社及ヒ退社	一二九
第六節 解散	一三〇
第七節 清算	一三一
第八節 舊商法ノ合資會社	一三一
第四章 株式會社	一三三
第一節 株式會社ノ意義	一四〇
第二節 會社ノ設立	一四九

第一款 定款ノ作成	一五〇
第二款 單純設立	一五七
第三款 複雜設立	一六一
第四款 設立ノ登記	一七三
第五款 發起人ノ地位	一七五
第三節 株式	一七九
第一款 株式ノ金額	一八〇
第二款 株式ノ所屬者	一八一
第三款 株主ノ權利	一八三
第四款 株主ノ義務	一八九
第五款 株式ノ讓渡	一九二
第六款 株式ノ質入	一九五
第七款 株式ノ消滅	一九六
第八款 株券	一九九
第九款 株主名簿	二〇二
第四節 會社ノ機關	二〇三

第一款 株主總會	二〇三
第二款 取締役	二一三
第三款 監査役	二二二
第五節 會社ノ計算	二二四
第一款 計算書類ノ作成、公示及承認	二二四
第二款 貸借對照表	二二五
第三款 利益ノ配當	二二九
第四款 利息ノ配當	二三二
第五款 檢査	二三四
第六節 社債	二三五
第一款 社債ノ性質	二三五
第二款 社債ニ對スル制限	二三七
第三款 社債募集ノ方法	二三七
第四款 債券	二三八
第五款 社債原簿	二三八
第七節 定款ノ變更	二三八



第一款 總論	二三八
第二款 資本ノ増加	二四〇
第三款 資本ノ減少	二四七
第八節 解散	二五三
第九節 清算	二五四
第五章 株式合資會社	二六〇
第一節 株式合資會社ノ意義	二六二
第二節 會社ノ設立	二六五
第三節 社員ノ權利義務	二六六
第四節 會社ノ機關	二六七
第五節 會社ノ計算	二六九
第六節 社債	二七〇
第七節 定款ノ變更	二七〇
第八節 無限責任社員ノ退社	二七一
第九節 會社ノ解散	二七一
第十節 清算	二七一

第十一節 組織變更	二七二
-----------	-----

第六章 外國會社	二七二
----------	-----

第一節 外國會社ノ意義	二七三
第二節 外國會社ニ適用スヘキ特別規定	二七九

# 商法會社目次 終

罰則會 捕目 六

第一章 總則	一
第二章 罰則	二
第三章 罰則會	三
第四章 罰則會	四
第五章 罰則會	五
第六章 罰則會	六
第七章 罰則會	七
第八章 罰則會	八
第九章 罰則會	九
第十章 罰則會	十
第十一章 罰則會	十一
第十二章 罰則會	十二
第十三章 罰則會	十三
第十四章 罰則會	十四
第十五章 罰則會	十五
第十六章 罰則會	十六
第十七章 罰則會	十七
第十八章 罰則會	十八
第十九章 罰則會	十九
第二十章 罰則會	二十
第二十一章 罰則會	二十一
第二十二章 罰則會	二十二
第二十三章 罰則會	二十三
第二十四章 罰則會	二十四
第二十五章 罰則會	二十五
第二十六章 罰則會	二十六
第二十七章 罰則會	二十七
第二十八章 罰則會	二十八
第二十九章 罰則會	二十九
第三十章 罰則會	三十
第三十一章 罰則會	三十一
第三十二章 罰則會	三十二
第三十三章 罰則會	三十三
第三十四章 罰則會	三十四
第三十五章 罰則會	三十五
第三十六章 罰則會	三十六
第三十七章 罰則會	三十七
第三十八章 罰則會	三十八
第三十九章 罰則會	三十九
第四十章 罰則會	四十
第四十一章 罰則會	四十一
第四十二章 罰則會	四十二
第四十三章 罰則會	四十三
第四十四章 罰則會	四十四
第四十五章 罰則會	四十五
第四十六章 罰則會	四十六
第四十七章 罰則會	四十七
第四十八章 罰則會	四十八
第四十九章 罰則會	四十九
第五十章 罰則會	五十
第五十一章 罰則會	五十一
第五十二章 罰則會	五十二
第五十三章 罰則會	五十三
第五十四章 罰則會	五十四
第五十五章 罰則會	五十五
第五十六章 罰則會	五十六
第五十七章 罰則會	五十七
第五十八章 罰則會	五十八
第五十九章 罰則會	五十九
第六十章 罰則會	六十
第六十一章 罰則會	六十一
第六十二章 罰則會	六十二
第六十三章 罰則會	六十三
第六十四章 罰則會	六十四
第六十五章 罰則會	六十五
第六十六章 罰則會	六十六
第六十七章 罰則會	六十七
第六十八章 罰則會	六十八
第六十九章 罰則會	六十九
第七十章 罰則會	七十
第七十一章 罰則會	七十一
第七十二章 罰則會	七十二
第七十三章 罰則會	七十三
第七十四章 罰則會	七十四
第七十五章 罰則會	七十五
第七十六章 罰則會	七十六
第七十七章 罰則會	七十七
第七十八章 罰則會	七十八
第七十九章 罰則會	七十九
第八十章 罰則會	八十
第八十一章 罰則會	八十一
第八十二章 罰則會	八十二
第八十三章 罰則會	八十三
第八十四章 罰則會	八十四
第八十五章 罰則會	八十五
第八十六章 罰則會	八十六
第八十七章 罰則會	八十七
第八十八章 罰則會	八十八
第八十九章 罰則會	八十九
第九十章 罰則會	九十
第九十一章 罰則會	九十一
第九十二章 罰則會	九十二
第九十三章 罰則會	九十三
第九十四章 罰則會	九十四
第九十五章 罰則會	九十五
第九十六章 罰則會	九十六
第九十七章 罰則會	九十七
第九十八章 罰則會	九十八
第九十九章 罰則會	九十九
第一百章 罰則會	一百

本條ノ罪ハ公共ノ危險ヲ伴フヲ以テ通例トスルニ由リ立法者ハ具體的ニ公共危險ヲ生シタルト否トヲ分タスシテ之ヲ處罰スルコトヲ規定スルモノナリ故ニ具體的ニ公共危險若クハ特定ニ對スル危險ノ發生シタル事實ヲ證明セラレサルモ放火罪ハ公共危險ナリトノ理由ヲ以テ本條ノ適用ヲ除外スルヲ得ス

二 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス且他人ノ現在セサル建築物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタルトキハ其目的物ヲ犯人自身ノ所有ニ係ルト否トニ因リテ構成要件及ヒ刑罰ノ程度ヲ異ニス即チ是等ノ物ヲ他人ノ所有ニ係ル場合ニ於テハ其燒燬ニ因リ具體的ニ公共ノ危險ヲ生シタルト否トヲ問ハスシテ二年以上ノ有期懲役ニ處シ犯人自己ノ所有ニ係ル場合ニ於テハ具體的ニ公共ノ危險ヲ生シタルトキハ（證明ヲ要ス）六月以上七年以下ノ懲役ニ處スルモ然ラサルトキハ單ニ財產權ノ處分ニ過キスシテ不法ノ分子ナキ故ニ之ヲ罰セサルモノトス（一〇九條）茲ニ所謂自己ノ所有トハ即チ犯人ノ所有ト云フニ同一ナルヲ以テ其犯人ノ所有ニ係ル物ハ自己ノ所有ニ係ル物ト同一視スルヲ要ス又茲ニ所謂公共ノ危險トハ第一〇八條又ハ第一〇九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒スヘキ虞アル狀態ヲ意味ス（例ヘハ絶海ノ孤島ニ孤存スル自己ノ家屋ニシテ他人ノ住居ニ使用セス且他人ノ現在セサルモノヲ燒燬スルカ如キハ本罪ヲ構成スルコトナシ）

三 火ヲ放テ前二項ニ說示シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル場合ニ於テ

テハ其物他人ノ所有ニ係ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處シ自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(一一〇條)公共ノ危險ヲ生セサルトキハ毀棄罪ヲ構成スルコトアルモ本罪ヲ構成セス又犯人カ他人ノ所有物ヲ自己ノ所有物ト誤認シタルトキハ重ニ從テ處斷スルヲ得然レトモ燒燬ニ因テ公共ノ危險ヲ生スルノ結果ニ付テハ豫見ノ有無ヲ區別スル必要ナシ(所謂結果犯)

四 前題第二種又ハ第三種ニ屬スル自己所有ノ物ニ放火シタルニ其目的物ヲ燒燬シタルニ止マラス其火勢擴張シテ第一種ニ屬スル物又ハ第二種ニ屬スル他人所有ノ物ニ延燒シタルトキハ(燒燬ノ結果ヲ必要トセス)三月以上十年以下ノ懲役ニ處シ第三種ニ屬スル自己所有ノ物ヲ燒燬シタルニ同種ニ屬スル他人所有ノ物ニ延燒スルニ至リタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス(一一一條)是レ亦所謂結果犯ナリ第二種又ハ第三種ニ屬スル他人所有ノ物ヲ燒燬シタルトキハ其以外ノ物ニ延燒スルモ特別ノ處罰規定ナキカ故ニ第一〇九條第一項又ハ第一一〇條第一項ノ適用アルノミナリ然レトモ犯人カ第一種第二種及ヒ第三種ノ物ヲ併セテ燒燬スル意思ヲ以テ先ツ第三種ニ屬スル自己所有ノ物ニ放火シタル場合ノ如キハ第五四條ニ依リ最モ重キ刑ヲ以テ處斷セサルヘカラス要スルニ重キ結果ニ付テ故意(豫見)ノ存スルトキハ本條ノ結果犯ニアラス(明治三十六年大審院判決錄五六一頁參照)

註 所謂結果犯ニハ故意ノ有無ニ拘ラサルモノ(例ヘハ現行法ニ於ケル毆打創傷)ト故

意ノ存セサルコトヲ必要トスルモノ(例ヘハ現行法及ヒ新刑法ニ於ケル傷害致死)トアリ其區別ハ他ノ法條トノ關係ニ鑑ミ立法者ノ真意ヲ探究スルニアラサレハ之ヲ明カニスルヲ得ス文句ノ異同ノミヲ標準トスルハ誤ナリ

五 第一〇八條及ヒ第一〇九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(一一二條)既遂ニ至ラサル場合ト雖モ危害重大ナレハナリ第一〇九條第二項乃至第一一條ノ罪ハ所謂結果犯ニシテ其性質上未遂罪ノ成立ヲ認ムルコトヲ得ス

第一〇八條及ヒ第一〇九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處スルヲ原則トシ情狀ニ因リ刑ヲ免除スルコトヲ得ルモノトス(一一三條)此原則ヲ認メタルハ放火ノ行爲タル危害重大ナルカ故ニ其萌芽ヲ絶テテ事ヲ未然ニ防カントスルノ趣旨ニ出テ此例外ヲ認メタルハ頗ル原諒スヘキ激情ニ出ツルモノアリテ而モ未タ實害ナケレハナリ豫備ヲ罰スルハ明文ニ依ルヘキコト勿論ナルカ故ニ第三種ノ物又ハ自己ノ所有ニ係ル第三種ノ物ヲ燒燬スルノ準備行爲ハ之ヲ罰スルコトヲ得サルヲ原則トス

六 以上説明スルカ如ク第一〇九條及ヒ第一一條ニ於テハ目的物カ自己ノ所有ナルト他人ノ所有ナルトニ因リテ罪素ヲ異ニシ且刑ノ輕重アリト雖モ自己ノ所有ニ係ル物差押(民事訴訟法ニ依ルモノナルト國稅徵收法ニ依ルモノナルトヲ區別セス然レトモ他人ノ財産上ノ權利ヲ保護スル趣旨ノ規定ナルカ故ニ刑事訴訟法ニ依ルニ證據物件ノ差押ヲ含マサルヘ

シ)ヲ受ケ物體ヲ負擔シ又ハ貸貸セラレ若クハ保險ニ付セラレタル場合ニ於テ故意ニ之ヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル場合ト等シク第一〇九條第一項又ハ第一一〇條第一項ニ依リテ之ヲ處分スヘキモノトセリ(一一五條)然レトモ法律ハ本章ノ罪ニ付テ此種ノ物ヲ他人ノ所有ト看做ス(二四二條參照)ニアラスシテ故意ニ之ヲ燒燬シタル場合ニ限ルノ趣旨ナルカ故ニ此種ノ關係ナキ自己ノ所有物ヲ燒燬シ因テ此種ノ關係アル自己ノ所有物ニ延燒スルコトアルモ第一一一條ヲ適用スルコト能ハサルヘシ而シテ自己ノ所有物カ此關係ニ存スルコトハ犯人ニ於テ之ヲ知ル場合ニアラサレハ第一一五條ノ適用ナシ之ニ反シ第一〇九條ニ記載スル物ニ付テ第一一五條ノ適用アルトキハ第一一二條及ヒ第一一三條ノ適用アルハ勿論ナリ

# 第五 準放火罪ハ第一一七條第一項及ヒ第一一四條ニ規定スル罪ナリ

一 第一一七條第一項ハ火藥汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ放火ノ目的物ト爲ルヘキ物ヲ損壞スル者ヲ處罰スルコトヲ規定ス激發物ヲ破裂セシムルハ放火ニアラス物ノ損壞ハ燒燬ノ概念ニ屬セサルカ故ニ純然タル放火罪ニアラスト雖モ火熱ニ因縁アルノミナラス其影響ニ於テ彼此殆ト軒輊ナキカ故ニ法律ハ之ヲ放火ニ準シテ本章中ニ規定シタルモノナリ本條ニ所謂激發スヘキ物トハ點火ニ因リ激烈急速ナル膨脹力ヲ惹起シ以テ固形物ヲ毀壞スルノ用ニ供セラルルモノナリ激發物ノ破裂其モノニ因テ損壞ノ結果ヲ生スルコトヲ必要ト

スルカ故ニ火藥ヲ使用シテ小銃ヲ發射シ其銃丸ヲ以テ物ヲ破壞スルカ如キ場合ヲ包含セス」  
 爆發物取締罰則(明治十七年布告第三二號)第一條ノ罪ハ公共危險罪ニアラスシテ各個人ノ身體財產ニ對スル危險ヲ伴フモノナリ此點ニ於テ準放火罪タル第一一七條第一項ノ行爲ト同シカラス且準放火罪ニ於ケル目的物ハ其損壞ニ因テ公共危險ヲ生シ得ル物タルコトヲ要シ又損壞ノ結果アルコトヲ要スルモ取締罰則ニ於ケル罪ノ目的物ニハ此ノ如キ制限ナク又損壞ノ結果アルコトヲ要セサル點ニ於テモ二者異ナル所アリト雖モ互ニ衝突スル部分ナキニアラス例ヘハ現ニ人ノ住居ニ使用セス且人ノ現在セサル他人ノ所有ノ建造物ヲ損壞スル目的ヲ以テ爆發ヲ使用シタルトキハ其目的ヲ達スレハ準放火罪ノ既遂ト爲リ其目的ヲ達セサレハ未遂ト爲ルヘク何レノ場合ニ於テモ取締罰則第一條ノ規定ト衝突スヘシ此ノ如ク互ニ相矛盾スル範圍ニ於テハ新法タル改正刑法ハ舊法タル取締罰則ヲ廢止スルノ效力ヲ有ス(矛盾セサル範圍ニ於テ前顯罰則ノ效力アルハ勿論ナリト雖モ其科刑頗ル嚴酷ニシテ伸縮ノ範圍狭小ニ失シ新刑法ノ主義ニ反スルカ故ニ廢止セラルル部分ト殘存スル部分トハ著シク刑ノ權衡ヲ失スルニ至ル)

本罪(一一七條一項ノ罪)ノ處分ハ目的物ノ區別ニ從ヒ第一〇八條乃至第一一〇條ノ例ニ依リ第一〇八條及ヒ第一〇九條第一項ノ例ニ依ルヘキ部分ニ關シテハ其未遂及ヒ豫備ノ處罰ニ付テ第一一二條及ヒ第一一三條ノ例ニ依ルコトヲ要スヘク而シテ放火罪處分規定ニ對



スル説明的性質ヲ有シ之ト分離スヘカラサル第一一五條ノ規定モ亦本罪ノ處分ニ付テ適用アルヘシ然レトモ激發物ヲ破裂セシメテ第一一〇條及第一一〇條ニ記載シタル自己所有ノ物ヲ損壞シ因テ第一一〇條ニ記載シタル物又ハ第一一〇條及第一一〇條ニ記載シタル他人所有ノ物ヲ損壞スルニ至リタル場合ニ付テハ第一一條ノ例ニ依ルコトヲ得ルヤ否ヤハ疑問タリ

二 火災ノ際鎮火ヲ妨害スル行爲ヲ以テ第二ノ準放火罪トス此罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(一一四條)火災ノ原因ハ問フ所ニアラス放火、失火、偶然ナル事實ニ因ル出火何レノ場合ニ於テモ可ナリ前二者ニ限ルノ理由ナシ然レトモ此行爲ヲ罰スルハ放火ト等シク公共危險ヲ生シ又ハ之ヲ生スル一般の傾向アルニ因ルモノナルカ故ニ第一一〇條乃至第一一〇條ノ罪ノ目的物ト爲リ得ヘカラサル物ノ燃焼ハ茲ニ所謂火災ニアラス鎮火ヲ妨害スト云フハ火災消防ノ障礙ト爲ルヘキ一切ノ行爲ヲ包含ス鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞スルカ如キハ其一例タルニ止マル

鎮火ノ妨害ハ火災ノ結果ニ對シテ一ノ原因タルヲ得ヘク此點ニ於テ放火ト其價值異ナラスト雖モ放火行爲其モノタルコトヲ得サルカ故ニ純然タル放火罪ニアラス然レトモ現行法カ之ヲ罰スヘキ規定ヲ缺タハ不備ニシテ新刑法ノ之ヲ補ヒタルハ相當ナリ而シテ本罪ノ刑純然タル放火罪ニ比シテ輕キハ情狀輕シト認メタルニ因ル

## 第六 失火罪及準失火罪ハ第一一六條及第一一七條第二項ニ規定サレタリ

失火罪ハ火ヲ失シテ放火ノ目的物ト爲リ得ルモノヲ燒燬スル罪ナリ火ヲ失シテト云フハ過失ニ因リ火災ヲ惹起スルノ義ナリ如何ナル注意ヲ缺キタル場合ニ於テ出火ニ付テ過失アリト云フコトヲ得ルカハ過失ノ一般の概念ニ照シ各場合ノ事情ニ依リテ之ヲ決定スヘキ問題ナリ第一一〇條ニ記載セル自己所有ノ物又ハ第一一〇條ニ記載シタル物ノ燒燬ハ之カ爲メニ公共ノ危險ヲ生シタル場合ニアラサレハ之ヲ罰セス第一一五條ノ規定ハ失火ノ場合ニ關係ナシ所謂準失火罪ハ過失ニ因リ激發物ヲ破裂セシメテ放火ノ目的ト爲リ得ヘキ物ヲ損壞スル罪(一一七條二項)ナリ其目的物ノ如何ニ依リ或ハ具體的ニ公共危險ノ存スルト否トヲ分タス或ハ公共危險ヲ生シタル場合ニ限リ第一一六條ノ例ニ依テ處斷ス

元來過失行爲ヲ罰スルハ例外ニ屬スルモノニシテ本罪ノ如キハ第三八條第一項但書ニ該當スルモノナリ失火ノ危害重大ナルニ因ル然レトモ故意ニ出タル場合ニ比スレハ情狀ニ雲泥ノ差異アルカ故ニ法律ハ三百圓以下ノ罰金刑ヲ科スルニ過キス

註 放火及ヒ失火ハ前述ノ如ク主トシテ公共危險罪タルノ性質ヲ有スルモノニ因テ財物ヲ毀損サレタル者ハ民法上ニ於ケル被害者タルコトハ勿論ナルカ故ニ民法第七〇九條以下ノ規定ニ從ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有スヘキ理ナリ而シテ失火ノ場合ニハ犯人ハ重大ナル過失アルニアラサレハ同條以下ノ適用ナキカ故ニ(明治三十二年法律四〇號參照)私訴

ニ關シテハ過失ノ重大ナルヤ輕小ナルヤヲ審査スル必要アルト雖モ失火罪ノ成立ニ付テハ過失ノ大小ヲ問フヲ要セサルモノトス

第七 瓦斯電氣等ノ放出罪ト假稱スル行爲ハ第一一八條ニ規定セラル或ハ之ヲ第三種ノ準放火罪ト名クルモ妨ナシト雖モ適切ナラサルカ如シ立法者カ之ヲ放火及ヒ失火ノ章中ニ規定シタルハ瓦斯、電氣又ハ蒸汽カ多少火ト因縁ヲ有シ且不定數ノ人類ニ危害ヲ及ホスヘキ傾向アル點ニ於テ稍、其作用ヲ同シウスルニ因ルヘシ

一 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(一項) 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ハ其貯藏器又ハ其流域ノ外ニ之ヲ放出シ若クハ其流通ヲ遮斷スルモ其程度ニシテ薄弱ナルトキハ特ニ人ノ生命、身體又ハ財産ニ害ヲ及ホスコトナシト雖モ其程度ノ如何ニ依リテハ人畜ノ窒息、物ノ燃燒又ハ破裂等ヲ生スルコト少ナカラサルカ故ニ本條ノ行爲ハ一般ニ公共危險性ヲ具フルモノナリ然レトモ法律ハ具體的ニ危險ノ發生シタルコトヲ要求スルカ故ニ此事實ナキトキハ犯罪ヲ構成セス但其危險カ一人ニ及ヒタルニ止マルヤ公共ニ及ヒタルヤハ無關係ナリ刑ノ稍、輕キハ放火及ヒ準放火ノ場合ニ比シ危險ノ程度小ナルヲ以テ通例トスルニ因ル

二 前段ノ行爲カ人ノ死傷ヲ惹起シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重ニ從テ處斷ス(二項) 傷害ノ罪ハ過失傷害ノ罪ヲ包含セス傷害ノ罪ト比較セラルルモノハ本條第一項ノ罪ナリ然レトモ死傷ノ結果ヲ生スル傷害ノ罪ハ何レモ本條第一項ノ罪ヨリ重キカ故ニ本條第一項ニ依リテ處斷スヘキ場合ナシ而シテ本條ノ行爲ヲ以テ人ヲ傷害スル意思アルトキハ當然傷害ノ罪ヲ構成シ人ヲ死ニ致スノ意思アルトキハ殺人ノ罪ヲ構成スヘシ

## 第十二章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一 溢水及ヒ水利ニ關スル罪ハ第一一九條乃至第一二三條ノ規定スル所ナリ現行刑法ハ第三編第二章財産ニ對スル罪ノ一種トシテ之ヲ規定シタルト雖モ是レ亦放火及ヒ失火ノ罪ト同シク公共危險罪タルノ性質ヲ有スルカ故ニ新刑法ハ之ヲ他ノ靜謐ヲ害スル罪ト同地位ニ之ヲ規定スルニ至レリ本罪ノ放火又失火罪ト異ナル所ハ放火及ヒ失火ノ罪ハ物ノ燒燬ニ依テ公共ノ危險ヲ生セシメ本罪ハ溢水ニ依リテ物ヲ浸害セシムルニ因テ公共ノ危險ヲ生セシムルノ點ニ在リ即チ公共ノ危險ヲ生セシムル手段ノ異ナルニ過キサルナリ故ニ本罪ニ於ケル物體及ヒ本罪ニ對スル處分ノ如キモ亦放火及ヒ失火ノ罪ノ場合ニ類似ス

第二 溢水ノ罪ニハ純然タルモノト準似ノモノトアリ純然タル溢水罪ニ在リテハ溢水ノ行爲ト浸害ノ結果トヲ要件トス溢水トハ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ又ハ其他ノ手段ヲ以テ河川湖海等ノ水ヲ其界域外ニ氾濫セシムルコトヲ謂フモノニシテ浸害トハ生命、身體、財産等ニ危害

ヲ及ホスヘキ程度ニ於テ水力ヲ以テ一定ノ目的物ヲ侵蝕セシムルヲ謂フ故ニ例ヘハ柄杓ヲ以テ或物體ニ水ヲ注カカキハ溢水侵害ニアラス然レトモ侵害ハ必スシモ物ヲ漂流セシムルコトヲ要セス

溢水罪ハ侵害セラレタル物ノ種類ニ依リ構成要件及ヒ處分ヲ異ニス即チ溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ侵害シタルトキハ具體的ニ公共ノ危險ヲ生シタルト否トヲ問ハス死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處シ(一九條)其他ノ物ヲ侵害シタルトキハ不定數人ノ生命身體、財産ニ對シテ具體的危險ヲ生セシメタル場合ニ限テ一年以上十年以下ノ懲役ヲ以テ處罰スヘキモノトス(一二〇條)他ノ物ト云フハ頗ル包括的ナリト雖モ其物ノ侵害ニ因テ公共危險ヲ生セシメ得ヘキモノナルコトヲ要スルカ故ニ自ラ制限ヲ受クヘク從テ人ノ住居セサル建築物、鑛坑又ハ田圃、牧場等ノ侵害ヲ以テ後段ニ屬スル場合ノ主要ナルモノトス而シテ第一種ノ目的物ニ付テハ所有者ノ何人タルヲ區別スルヲ許サズ第二種ノ目的物ニ付テハ犯人自己ノ所有物ナルト他人ノ所有物ナルトキハ差押テ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限テ其侵害ヲ處罰スヘキモノトス從テ此ノ如キ關係ナキ自己所有ノ物(第二種)ヲ侵害シテ公共ノ危險ヲ生セシムルモノ罰スルコトヲ得ス(立法論トシテハ此ノ如キ場合ヲモ處罰スルヲ以テ公共危險罪ノ本旨ニ

適合スルモノト認メサルヘカラス)

故意ハ第一一九條ノ罪ニ付テハ構成要件ノ全部ニ及フコトヲ要シ第一二〇條ノ罪ニ付テハ公共危險ノ發生ヲ認識シタルコトヲ必要トセス

第三 法律ハ第一一二條ニ於テ過失溢水罪ヲ認メタリ其趣旨明瞭ナルヲ以テ特ニ説明セス

第四 準溢水罪ハ第一二一條ノ規定スル所ニシテ其趣旨第一一四條ノ準放火罪ト同一ナリ就テ參照スヘシ

第五 法律ハ溢水罪ノ未遂ヲ處罰セス然レトモ堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ、水路ヲ壅塞スル等其他溢水セシムヘキ行為ヲ處罰スルノ規定アリ(一二三條參照)從テ溢水侵害ヲ生セシムヘキ行為ヲ爲スモ具體的ニ溢水侵害ノ事實ヲ生セサルトキハ第一一九條又ハ第一二〇條ノ罪ノ未遂罪ニアラスシテ獨立ノ罪ヲ構成ス而シテ溢水ノ事實ヲ生シタルモ侵害ノ結果ヲ生セス若クハ自己ノ所有物ニシテ第一二〇條ニ記載シタル物ヲ侵害スルニ止マリタル場合ニ付テモ亦同一ノ論結ヲ生スヘシ

第六 法律ハ第一一二條中ニ水利ニ關スル罪ヲ規定ス水利トハ主トシテ農業上ノ目的ノ爲メニ流水ヲ使用スル便宜ヲ意味スルモノニシテ本罪ハ此ノ如キ便宜ヲ妨害スヘキ行為ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナリ具體的ニ水利妨害ノ結果ヲ生スルコトヲ必要トセス堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊スルカ如キハ水利妨害ト爲ルヘキ行為ノ適例ニシテ其他水流ヲ壅塞シ又ハ變更スル

等凡ソ水利ヲ妨クヘキ危險ヲ具備スル一切ノ行為ハ本罪ヲ構成スルコトヲ得ヘシ(註一)  
 本罪ノ成立ニ付テモ亦故意ヲ必要トス故意ノ内容ハ自己ノ行為ニ因リ水利ノ妨害ト爲ルヘキ  
 狀態ヲ生スルコトヲ認識スルヲ以テ足ル他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ動機(現  
 刑四〇三條參照)ハ特別ノ構成要件ニアラス  
 水利ノ妨害ト爲ルヘキ行為モ亦違法ナルモノニアラサレハ犯罪ヲ構成セサルコト一般ノ原則  
 ニ從フ故ニ例ヘハ規約、慣例等ニ依リ上流ノ部落ノミカ用水權ヲ有スルトキハ其權利ノ行使  
 ニ因リ下流部落ノ水利ヲ妨クヘキ狀態ヲ生セシムルモ本罪ヲ構成セサルヘク之ニ反シ下流部  
 落ノミカ引水權ヲ有スル場合ニ於テ上流部落カ水流ヲ引用シタルトキハ本罪ノ成立ヲ見ルヘ  
 シ(註二)

註一 刑法(現行)第四一三條後段(其他水利ヲ妨害シタル者)ノ法意ハ前段ニ明記セル  
 提防決潰毀壞ノ外其手段方法ノ何タルヲ問ハス總テ水利ヲ妨害スルモノヲ包含ス本案早  
 魁ニ際シ被告等ノ居村ヲ通過シテ下流各村ノ田地ニ灌漑スル水路ノ幾部ヲ堰止メ吸水  
 器ノ附著セル水車ヲ利用シテ自村ノ田地ニ注水シ下流各村ノ水利ヲ妨害シタルノ事實ヲ  
 認メ該法條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリ(明治二十七年大審院判決録首卷一六七頁  
 參照)  
 註二 刑法(現行)第四一三條ハ權利ノ有無ヲ問ハス唯其所爲アルノミヲ以テ直チニ處罰

スルノ律意ニアラスシテ(明治二十八年前上首卷二九三頁)水ノ使用ニ付キ他人ノ有ス  
 ル權利ヲ妨害スルノ事實アルヲ必要トス(明治三十二年前上二卷三一頁)從テ他人カ  
 舊慣ニ背キ損ニ施シタル水利ニ關スル工事ヲ破壞スルモ水利妨害罪ヲ構成セス(明治三  
 十年前上七卷二一頁)

### 第十三章 往來ヲ妨害スル罪

第一 社會的生活ハ人類相互ノ交通ニ外ナラス交通ヲ爲スニハ公衆往來ノ方便ナルヘカラス  
 而シテ國家ハ此方便ノ安全ヲ維持スルノ任務ヲ有スルカ故ニ之カ妨害ト爲ルヘキ行為ヲ禁遏  
 セサルヘカラス是レ本罪ノ規定アル所以ナリ刑罰ヲ制裁トシテ之ヲ禁遏スルニハ此種ノ行為  
 ノ性質上公共ノ身體、生命、財産等ニ對スル危害ヲ生スルノ傾向アリ其影響重大ナルニ因ル  
 本罪ハ法典第一章第一二四條乃至第一二九條ニ規定スル所ニシテ現行法第二編第三章第六  
 節中ノ往來妨害罪ト第三編第二章(財産ニ對スル罪)第九節船舶覆没ノ罪トヲ合セテ修正シ  
 タルモノナリ現行法ニ於ケル通信妨害罪ヲ除外シタルハ之ヲ郵便電信電話ニ關スル特別法規  
 ニ讓ルノ趣意ニシテ船舶覆没ヲ併セタルハ其性質他ノ往來妨害罪ト異ナラサルニ因ル  
 第二 往來妨害罪ハ一般往來妨害罪及ヒ重要交通機關ノ往來妨害罪ヨリ成リ後者ハ更ニ危險罪  
 ト實害罪トニ分チ又故意ノ場合ト過失ノ場合トニ分ツ



一般往來妨害罪ハ第一二四條ノ規定スル所ナリ特別構成要件トシテ陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞スルコト及ヒ往來ノ妨害ヲ生セシメタルコトヲ必要トス陸路水路及ヒ橋梁ハ公衆交通ノ用ニ供セラルルモノナラサルヘカラス從テ一個人ノ私用ニ供スルモノヲ包含セス然レトモ敷地、河床等カ官公有ナルト私有ナルトハ問フ所ニアラサルカ故ニ公用道路ノ敷地所有者カ之ヲ廢止變更スルニモ當該公務所ノ許可ヲ得ルニアラサレハ本罪ヲ構成スルコトアルヘシ橋梁中ニハ棧橋ヲ含ムコト疑ナシ陸路ニハ鐵道ヲ含マス本罪ノ目的物ハ法文ニ列舉スルモノニ限ルカ故ニ例ヘハ水路ヲ壅塞シテ渡舟ノ往來ヲ妨害スルハ本罪ヲ構成スルモ渡舟其モノヲ損壞シテ人ノ通行ヲ妨クルモ本罪ヲ構成セス本罪ニ於ケル行為ハ損壞又ハ壅塞ヲ爲スニ限ルカ故ニ其以外ノ行為ヲ以テ往來ヲ妨害スルモ本罪ヲ構成セス例ヘハ往來止又ハ車馬通行禁止ノ立札ヲ爲スカ如キ是ナリ而シテ損壞又ハ壅塞スト雖モ往來ノ妨害ヲ生セシムル程度ニ達セサルトキハ罪ト爲ラス例ヘハ既ニ朽廢ニ歸シ交通ノ用ニ供セラレサル橋梁ヲ毀壞スルカ如キ是ナリ往來ノ妨害ヲ生セシムルト云フハ往來ノ障礙ト爲ルヘキ狀態ヲ生セシムルコトヲ意味ス必スシモ特定ノ人カ往來ヲ阻止サレタル事實ノ存スコトヲ要セス

本罪ノ故意ハ公衆交通ノ陸路、水路又ハ橋梁ナルコト、之ヲ損壞又ハ壅塞スルコト及ヒ其行為ニ因リ往來ノ妨害ヲ生セシムルコトヲ認識スルヲ以テ内容トス此犯罪ヲ犯スニ因テ犯人ノ豫見セサル死傷ヲ惹起シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重ニ從テ處斷ス(本條二項)豫見アリ

タルトキハ殺人又ハ傷害ノ罪ヲ構成スヘク當然第五四條ノ適用アルヘシ法文ニ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スト云フハ解釋上ノ疑議ヲ免レス蓋シ傷害ノ罪ト本罪トニ付キ其刑ヲ比較スルトキハ傷害ノ罪ニ對スルモノ何レノ場合ニ於テモ重キコト明カニシテ(二〇六條及ヒ二〇八條ノ罪ハ本罪ト比較スヘキモノニアラサルカ故ニ問題トナラス而シテ又ハ二〇五條ノ刑ハ何レモ本罪ノ刑ヨリ重シ)各場合ニ付テ其刑ヲ比較シ本罪ノ刑ヲ重シトシテ之ヲ適用スヘキ場合ヲ生セサルカ故ニ法文ノ趣意ハ寧ロ「因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス」ト云フニ在ルモノト解スルヲ得ヘク或ハ又法律ハ刑ノ比較ヲ命スルニアラスシテ罪ノ比較ヲ命スルカ故ニ各場合ノ罪情ニ依リ往來妨害罪トシテ言渡スヘキ刑ト傷害ノ罪トシテ言渡スヘキ刑トヲ比較シ何レカ其重キニ從テ處斷スヘキモノナリト論斷スルコトヲ得レハナリ

第三 所謂重要ナル交通機關ハ汽車、電車及ヒ艦船ナリ法律ハ第一二五條ニ於テ之カ往來ノ危險ヲ生セシメタル罪ヲ規定ス往來ノ危險ヲ生セシムルト云フハ是等ノ交通機關カ往來スルニ際リ衝突轉覆脱線沈没等ノ事難ニ遭遇スヘキ虞アル狀態ヲ生セシムル義ニ外ナラス法文ニハ汽車、電車ニ付テハ鐵道又ハ其標識、艦船ニ付テハ燈臺又ハ浮標ヲ損壞スルコトヲ本罪ノ手段トシテ例示スルト同時ニ廣ク「其他ノ方法」ヲ以テスルコトヲ認メタルカ故ニ例ヘハ鐵道ニ障礙物ヲ横ヘ航路ニ水雷ヲ布設スルカ如キ其他荷モ往來ノ危險ヲ生セシメ得ハキ一切ノ

行爲ヲ包含スヘク而シテ其行爲ニハ作爲ト義務違反ノ不作爲トヲ共ニ包含ス然レトモ是等交通機關ノ往來ニ危險ナル狀態ヲ生セシムルニアラスシテ是等ノ交通機關其モノヲ破壞スルカ如キハ第一二六條ノ罪又ハ毀棄ノ罪ヲ構成スヘシ

故意ハ自己ノ行爲ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生スルコトノ認識ヲ以テ内容トス此故意ナキトキハ鐵道營業法其他ノ特別法規ニ於ケル犯罪ヲ構成スルコトアリト雖モ本罪ヲ構成セス又進ンテ是等ノ交通機關ヲ顛覆、覆没又ハ破壞スルノ意思アルトキハ第一二六條ノ少ナクモ末遂罪ヲ構成スヘシ此意思ナシト雖モ此ノ如キ結果ヲ生シタルトキハ此意思アル場合(一二六條)ト同一ニ處分スヘキコトニ付テハ第一二七條ノ特別規定アリ所謂結果犯ナリ蓋シ第一二五條ニ於ケル行爲ハ其性質上此ノ如キ結果ヲ生シ得ルモノナルカ故ニ既ニ其根本行爲ニ付テ認識アリ且其結果ノ發生シタル以上ハ此ノ如キ重キ結果ニ付テ認識アル場合ト同一ノ刑責ヲ負擔セシムルニ足ルヘキ危險性亦自ラ其犯人ニ具ハルモノト認ムルニ因ル

第四 法律ハ第一二六條ニ於テ人ノ現在スル汽車、電車又ハ艦船ヲ顛覆、覆没又ハ破壞シタル者ヲ處罰スルコトヲ規定ス此罪ヲ犯スニ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ本條第三項ノ結果犯ヲ構成ス艦船ヲ海上航行ノモノニ限ルハ失當ニシテ江湖河川ヲ航行スル小艦船ヲモ包含スルモノト解スルヲ可トスルモ主トシテ棹櫓ヲ以テ進行スル舟艇ヲ包含セサルモノト信ス舟艇ヲ除外スルハ恰モ自動車ヲ除外スルト同趣旨ニシテ其危害汽車、電車、艦船等ニ比シテ輕小ナル

# 雜 錄

○第二十四回卒業證書授與式 第二十四回卒業證書授與式ハ本月十二日午後一時第一講堂ニ於テ舉行セリ定刻席定マルヤ總理梅博士公務ヲ帶ヒ韓國ニ滞在セラルルニ付キ教頭富井博士各教科卒業生ニ卒業證書及ヒ優等者ニ賞品ヲ授ケラレ次テ懇篤ナル告辭アリ幹事清水法律學士ノ學事報告、講師總代秋山博士、來賓總代本野大使、校友總代高木代議士ノ祝詞、各教科卒業生總代ノ答辭アリテ式ヲ終リタルハ午後五時ナリキ

告辭、祝詞、答辭其他ノ情況ハ本月發行ノ法學志林欄ヲ以テ報スル管

## ○大審院判例要旨

○民法第三百八十八條ノ適用 民法第三百八十八條ノ規定ハ國家經濟上ノ理由ニ基キ法律ノ擬制ニ因リ地上權ノ設定アリタルモノト看做スモノナレハ本件ノ如ク土地及ヒ其上ニ存スル數箇ノ建物ヲ所有スル者カ其土地數箇ノ建物中ノ或建物トヲ抵當ト爲シ其他ノ建物ヲ抵當ト爲サナリシトキハ抵當權者カ抵當權設定ノ當時抵當ト爲ラサリシ建物ノ存在ヲ知リタルト否トヲ問ハス同條ヲ適用スヘキモノト解スルヲ當然トス何トナレハ若シ斯ル事情ノ爲メニ同

條ノ適用ヲ妨クルモノトセハ抵當權實行ノ爲メニ抵當ト爲ラサリシ建物ノ廢滅ニ歸セザラン  
コトヲ希望シタル同條立法ノ趣旨ヲ貫徹スルコト能ハサレハナリ (明治四十一年(第百二十號)  
○建物ノ意義 民法第三百八十八條ニ所謂建物トハ必スシモ單ニ主タル建物ノミヲ指シタル  
モノニアラス從タル建物ト雖モ主タル建物ヲ目的トシタル抵當權ノ之ニ及ハサル場合ニ於テ  
ハ同條ノ適用ヲ妨ケサルモノト解セサルヲ得ス何トナレハ抵當權ノ及ハサル建物ハ他ノ建物  
ニ對シ從タル關係アルト否トニ拘ハラズ抵當權實行ノ場合ニ於テ競賣ノ目的ト爲ラス依然ト  
シテ從來ノ所有者ニ屬スレハナリ本件ニ於テ抵當權カ係争ノ建物ニ及フモノナルヤ否ヤノ問  
題ニ付テハ原審ニ於テ爭點ト爲リタル形跡ナキヲ以テ原院カ斯ル問題ニ言及セザリシハ當然  
ノ事ナリ且本件ノ抵當ト爲リタル建物ト係争ノ建物トノ間ニ主從ノ關係アリト假定スルモ建  
物ニ關スル登記ハ主タル建物ト附屬建物ト同一表示欄ニ表示シテ之ヲ爲スヘキコトハ不動  
產登記法ノ規定スル所ナレハ附屬建物ニ付テ登記アルニ非サレハ抵當權者ハ主タル建物ヲ目  
的トシタル抵當權カ其附屬建物ニ及フコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス (同)

梅 法學博士 主筆

# 法學志林

第十六卷 每月一回廿日發行  
第六號 定價一冊金拾貳錢  
六月二十日 郵 税金壹錢  
發行 十冊前金郵稅共  
金壹圓貳拾錢 (第百六號)

◎志

林

物上代位ヲ論ス  
憲法ノ精神ヲ略說ス  
白地引受論

取締役ノ選任ハ單獨行爲ナルカ將タ  
承諾ヲ待チテ始メテ成立スルカ

法學博士 富井政章  
法學博士 寬克彦  
法學博士 西脇晋  
法學博士 梅謙次郎

◎質疑

質疑錄典

民法三題(梅法學博士、橫田法學博士、牧野法學士)  
刑法一題(牧野法學士)  
民法二題(板倉法學士)  
刑訴二題(板倉法學士)

法學士 吾孫子勝

◎判例

判例錄

大審院判例十九件  
獨逸國ノ司法官採用試驗

◎雜記

雜記

選舉法違犯件數○投票○破廉罪ノ議員排斥○開票方法改正說○會社合併ニ關スル疑問○第二ノ家屋  
稅問題○判例事第一回及辯護士試驗委員○判例事第一回及辯護士試驗日割  
新學年授業時間○各部科學年試驗○五大學聯合討論會○法政速成科第五班卒業試驗成績○衆議員議員當選ノ  
校友○讀學會○第二十八回校友茶話會○十日會○校友異動○校友住所異動

發行所

東京市麴町區富士見町  
六丁目十六番地

法政大學

校外生規則摘要

- 一 十个月以上本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス
- 一 講義録ノ講習ヲ終リタル者ハ校外生修業證書ヲ請求スルコトヲ得但手料金貳拾錢ヲ納ムヘシ
- 一 校外生月謝ハ左ノ如シ
  - 一 一个月分 各學年 金四拾錢 金壹圓
  - 一 六個月分 各學年 金貳圓三拾錢 金壹圓 金四圓五拾錢
  - 一 一學年分 各學年 金四圓五拾錢 金壹圓 金拾壹圓
- 一 月謝ヲ納付シタルトキハ講義録ヲ郵送スルヲ以テ則ニ領取證ヲ交付セシ若シ相當ノ日時ヲ過キテ講義録ノ到達セサルトキハ其旨本大學ニ通知スヘシ
- 一 校外生ハ講義録中ニ疑義アルトキハ講義録ノ番號科目頁數及ヒ疑問ノ要點ヲ記載シ本大學編輯局ヘ宛テ郵送スヘシ
- 一 質疑通信ノ文意解シ難キモノ主旨明瞭ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノハ解答ヲ付セシ
- 一 質疑中有益ト認ムルモノハ之ニ解答ヲ付シ法學志林又ハ講義録ニ登載スヘシ

◎注意

振替貯金ヲ以テ月謝ヲ納付セラルトキハ其都度振替貯金規則ニ依ル登記料金二錢ヲ要スルノ外失費ナク安全ニシテ便利ナリ

振替貯金口座『三九四番』

明治四十一年七月十九日印刷  
(定價金五十錢)  
明治四十一年七月二十日發行

編輯兼  
發行者 萩原敬之

東京市牛込區牛込北町十番地  
印刷者 重利俊夫

東京市四谷區四谷左門町五十八番地  
印刷所 金子活版所  
(電話新橋四九五番)

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 私立法政大學

(電話番町一七四番)